

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

韓国における折り紙教育

Education of and for Origami in Korea

松浦英子

Matsuura Eiko

折り図 Diagrams

カワセミ

King Fisher

萩原 元

Hagiwara Gen

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

烏天狗

Karasu Tengu

柏村卓朗

Kashiwamura Takuro

つまみおり Information

国際交流基金派遣レポート

The Japan Foundation Delegation Report

2012 JOAS創作折り紙コンテスト作品募集

Call for Works: The 2012 JOAS Origami Contest



通巻 132 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



烏天狗

Karasu Tengu

作: 柏村卓朗 (P.33)

by Kashiwamura Takuro (P.33)

■手足や羽根のパーツが、十分な長さで使いやすいバランスで折り出される展開図。このような基本構造には、ポーズ付けや筋肉の表現にこだわった仕上げ加工・改造を徹底的に盛り込んで遊び尽くしてほしい。作例では、つむじ風が人型に結晶したかのような、軽い身のこなしとスピード感が表現されていると思います。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Karasu Tengu: Kashiwamura Takuro

クローズアップ / Close-up

**P.11 韓国における
折り紙教育**

Education of and for
Origami in Korea

松浦英子
Matsuura Eiko

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 カワセミ
King Fisher

萩原 元
Hagiwara Gen



P.33 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

烏天狗
Karasu Tengu

柏村卓朗
Kashiwamura Takuro

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折紙散歩

Exploring into Modular Models

りっボウタイ、ボウタイユニット
Ritz Bow Tie, Bow Tie Unit

前川 淳
Maekawa Jun

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

真蝶
Makoto-cho (Butterfly for Mr. Yamaguchi)

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 折紙探偵団友の会 地域活動通信

Story of Origami Tanteidan Group
静岡友の会、関西友の会
Shizuoka Group, Kansai Group

鈴木美恵子
立石浩一
Suzuki Mieko, Tateishi Koichi

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

資料収蔵の現状報告
Origami Archives Progress Report

堀口直人
Horiguchi Naoto

P.18 気軽にはじめる 22.5 度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

パーツからの創作
Designing Parts of a Complex Model Modularly

小松英夫
Komatsu Hideo

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

松井英里香
Matsui Erika

情報 / Information

P.34 日本折紙学会 22 期事業報告と 23 期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 22nd Year and
Prospects in the 23rd Year

P.36 つまみおり Rabbit Ear

2012JOAS創作折り紙コンテスト作品募集
Call for Works: The 2012 JOAS Origami Contest
国際交流基金派遣レポート
The Japan Foundation Delegation Report

ユニット折紙散歩

Exploring into Modular Models 前川淳 MAEKAWA Jun

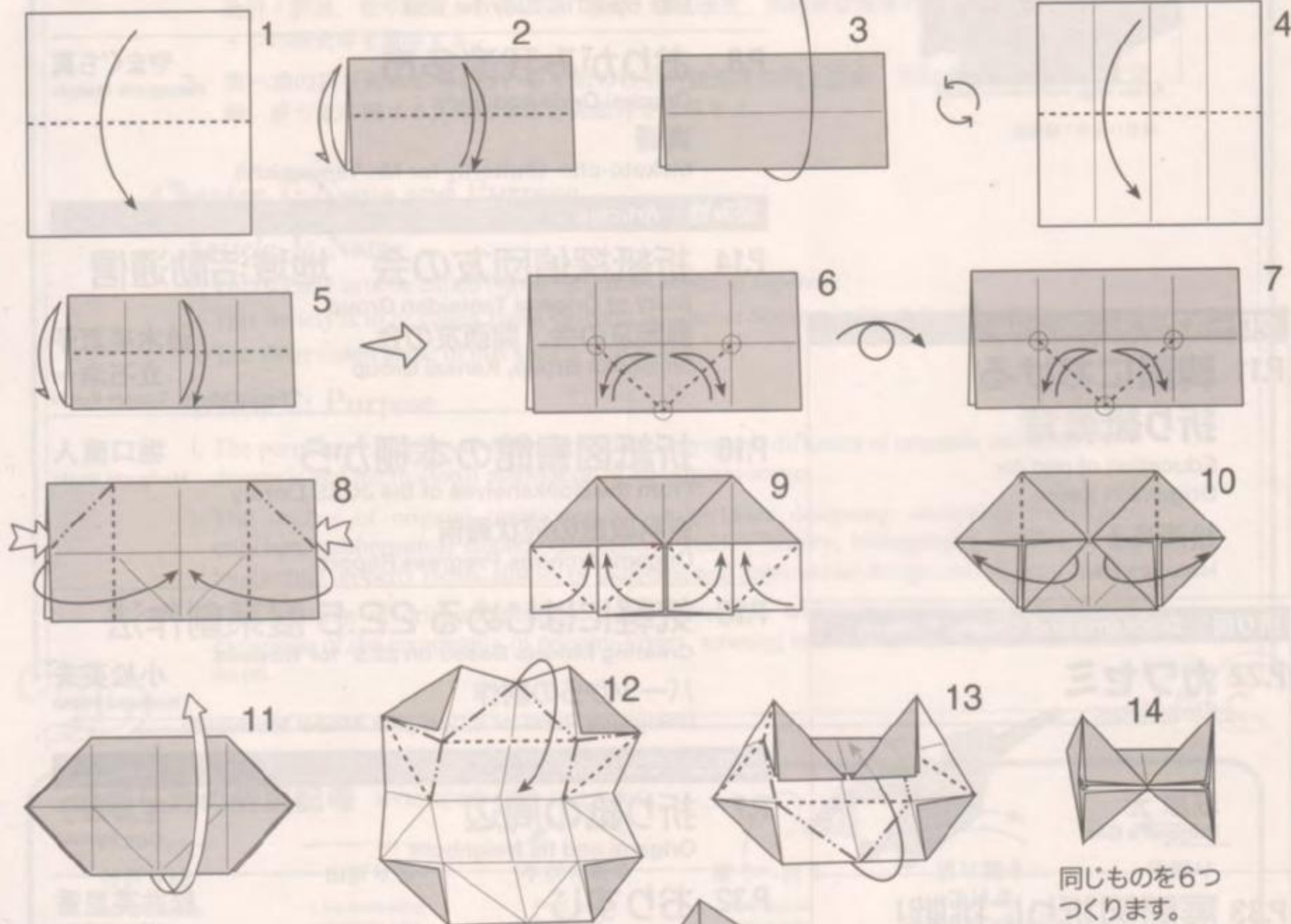
ボウタイ、つまり蝶ネクタイのようなかたちを組み合わせた立体なので、「りっボウタイ」と命名しました。

りっボウタイ Ritz Bow Tie

Cube = 立(Ritsu)方(Hou)体(Tai) (Rippoutai)



正方形を6枚つかいます。

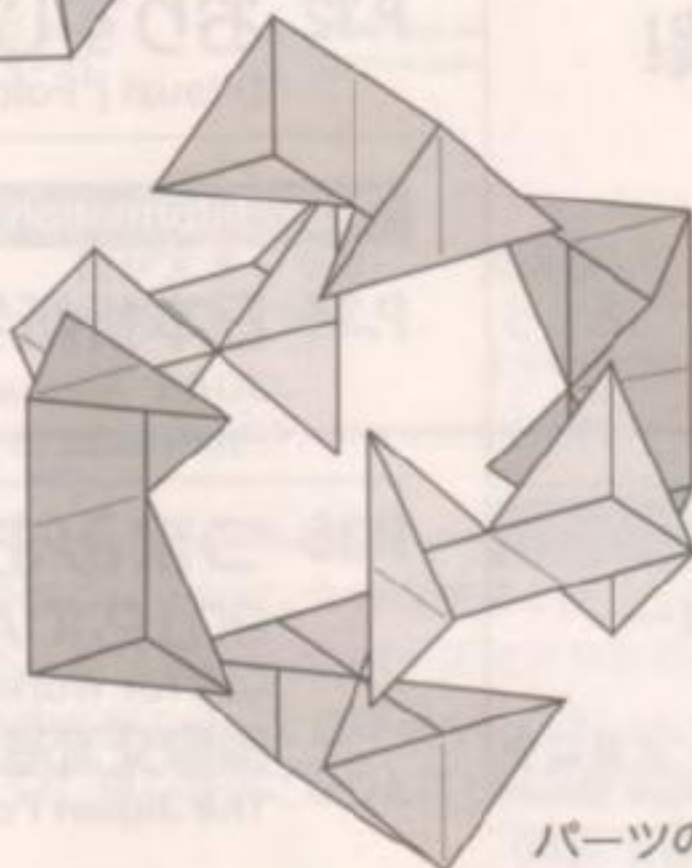


同じものを6つ
つくります。

Cuboctahedron 立方八面体組み



手とポケットのよう
な「差し込み」はあ
りません。



パーツの位置関係

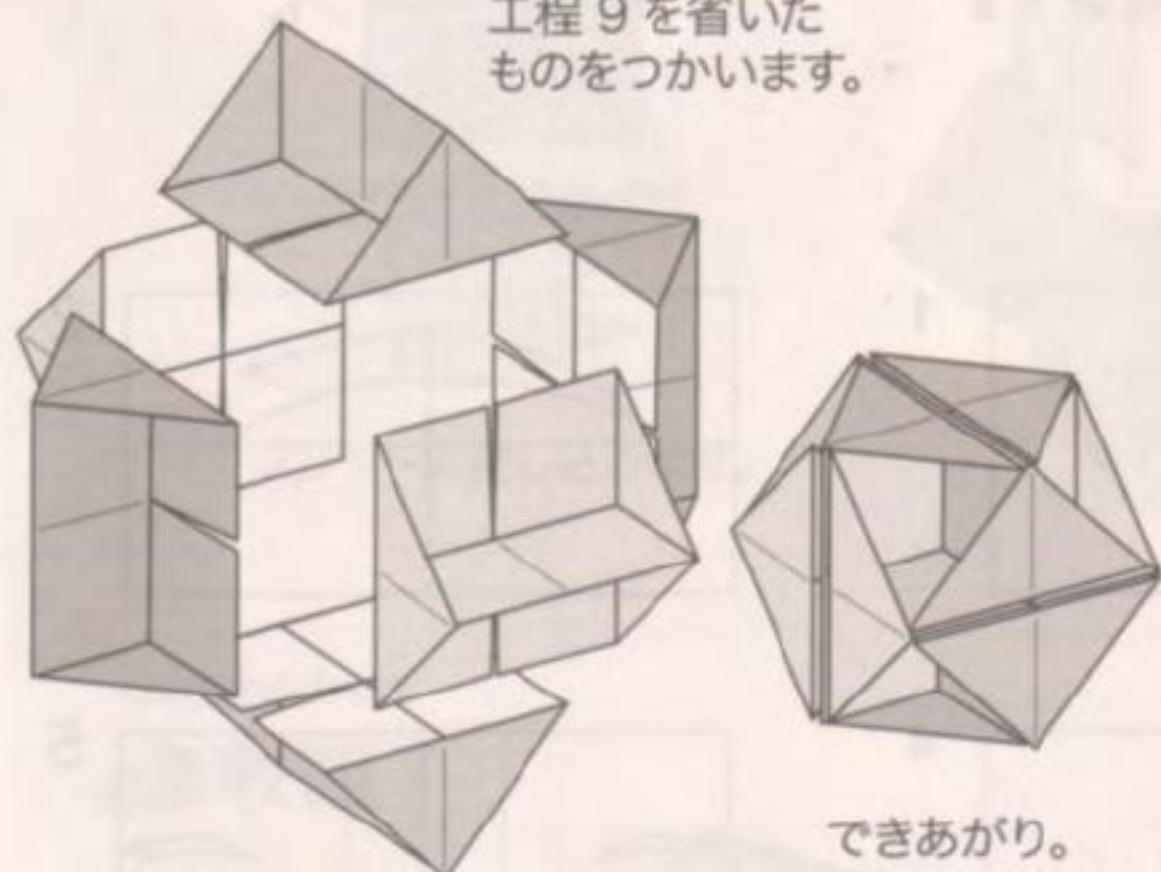


できあがり。

Cuboctahedron (difficult)

立方八面体組み(難)

工程 9 を省いた
ものをつかいます。

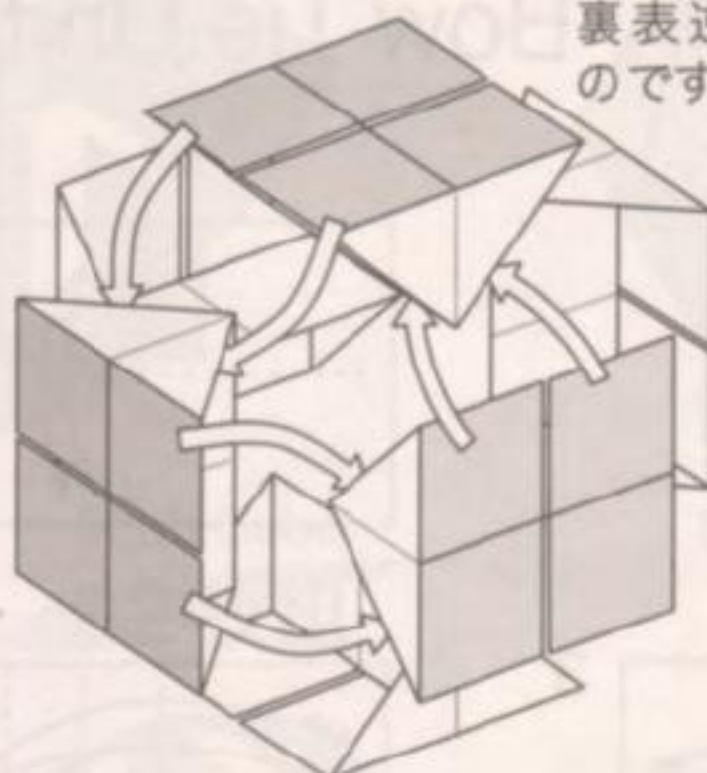


できあがり。

Cube

立方体組み

工程 9 を省いた
ものをつかいます。
図は、さらに、
裏表逆に折ったも
のです。



できあがり。

Quadratic Prism

四角柱組み

工程 9 を省いた
ものをつかいます。



スリットに
差し込みます。



できあがり。

Quadratic Prism (difficult)

四角柱組み(難)



できあがり。

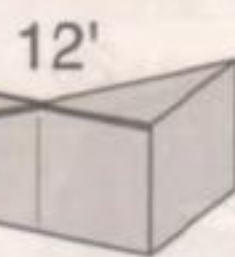
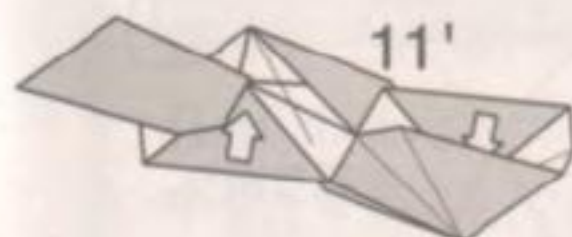
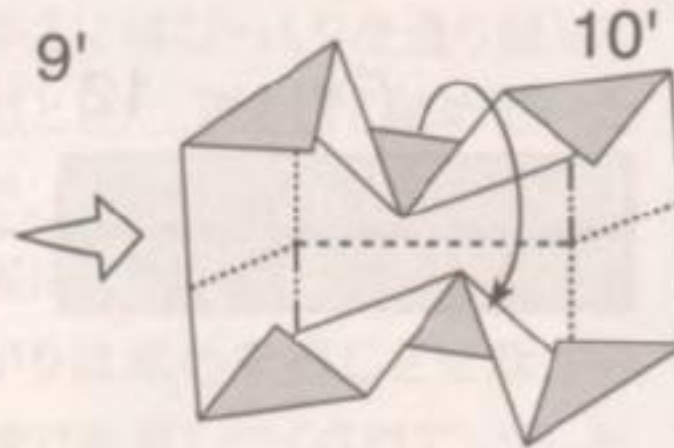
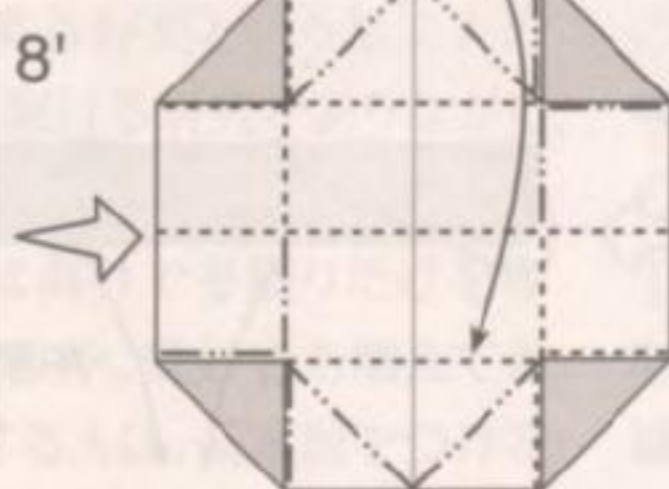
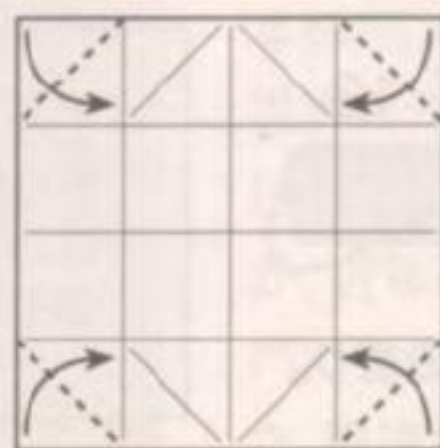
上下で差し込む
側と差し込まれる
側が変わります。

Quad Cube

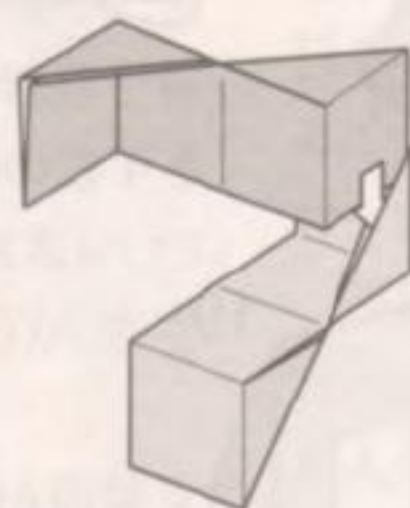
4/8 立方体



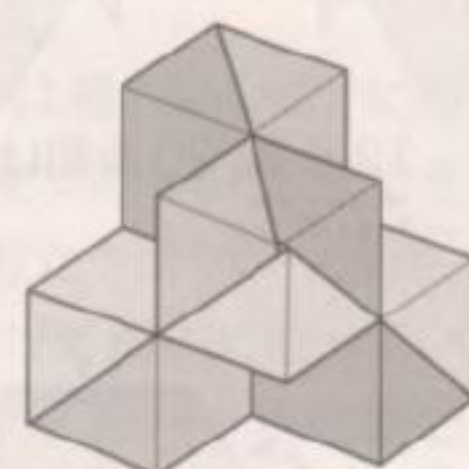
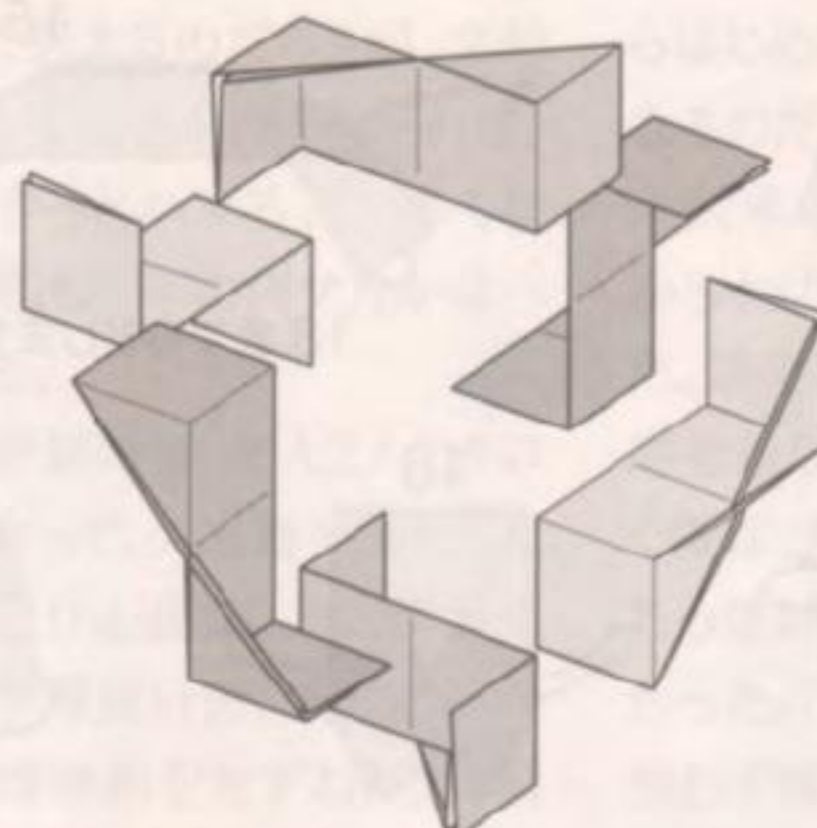
前ページの 7 から。



同じものを 6 つ
つくります。

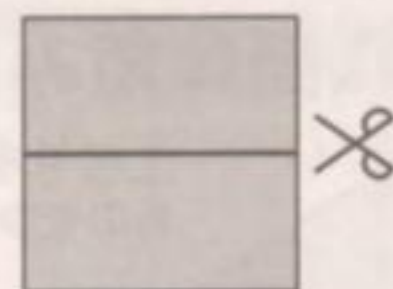


スリットに差し込みます。



できあがり。

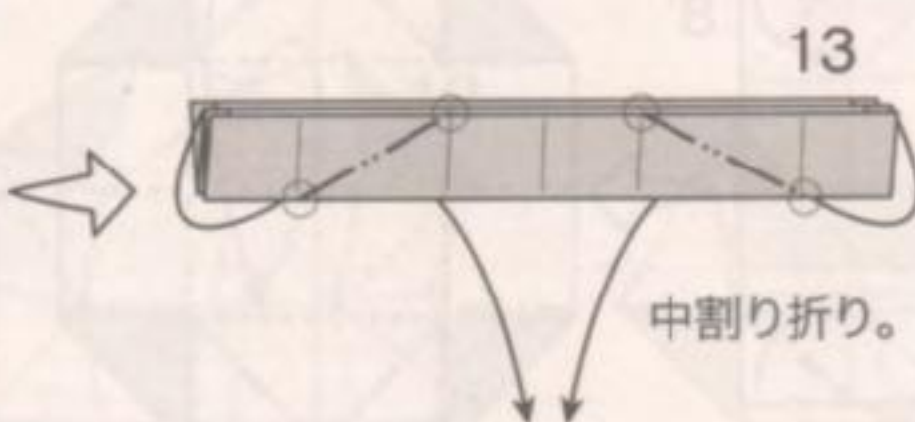
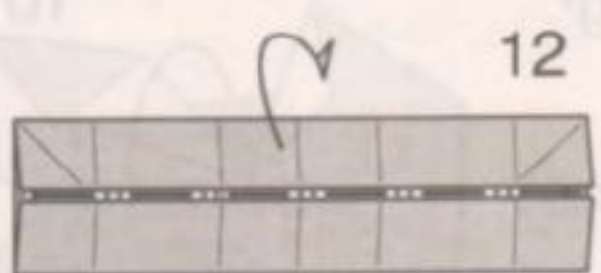
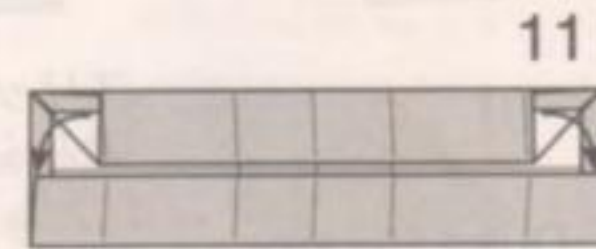
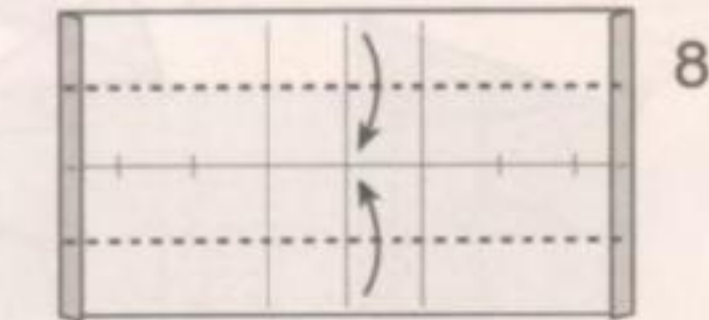
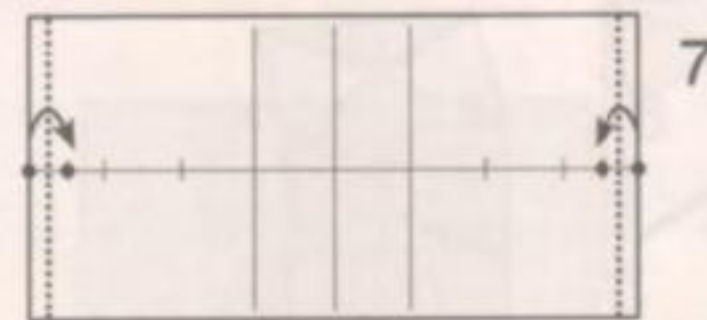
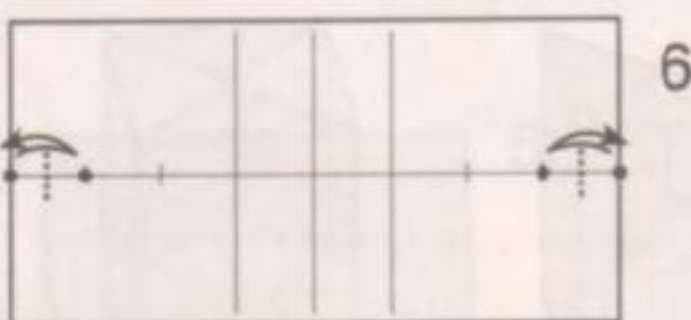
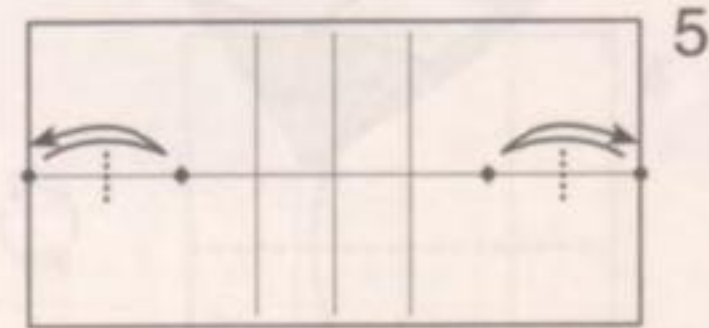
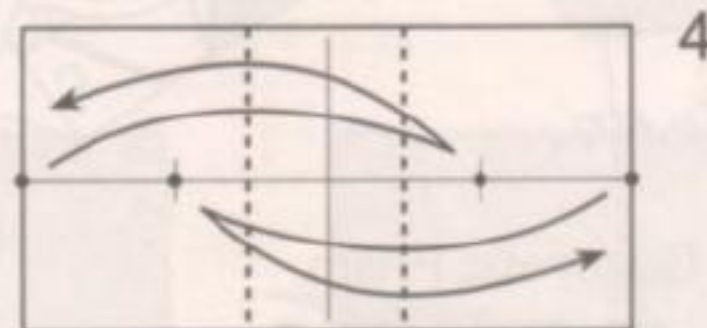
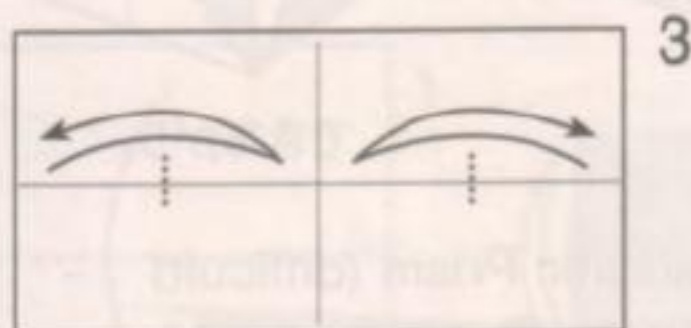
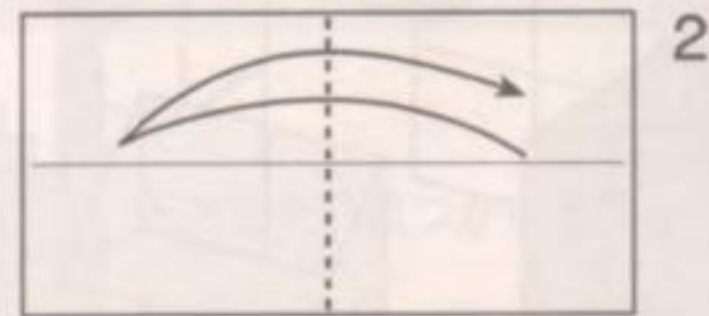
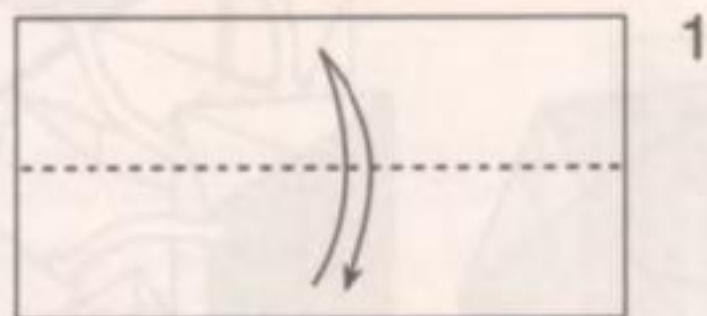
ボウタイユニット Bow Tie Unit



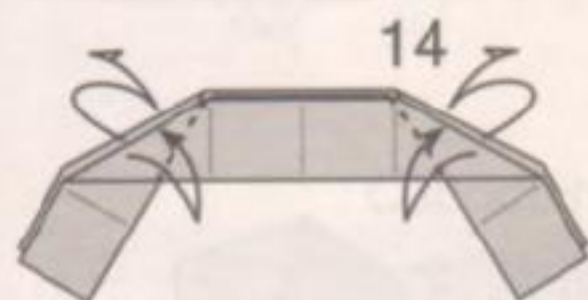
1:2 の長方形です。



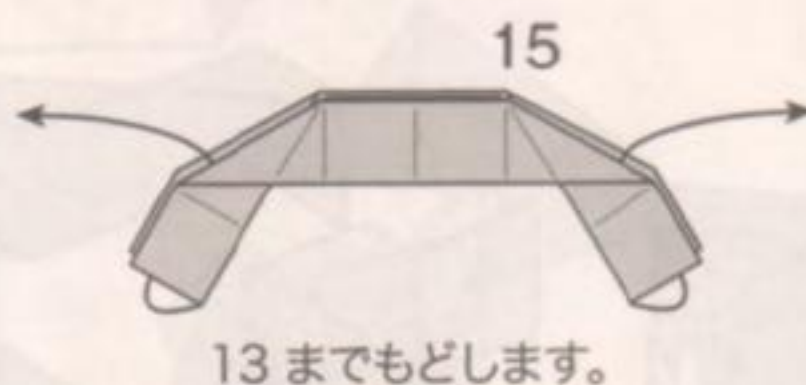
二十面体構造の場合、
6 枚つかいます。



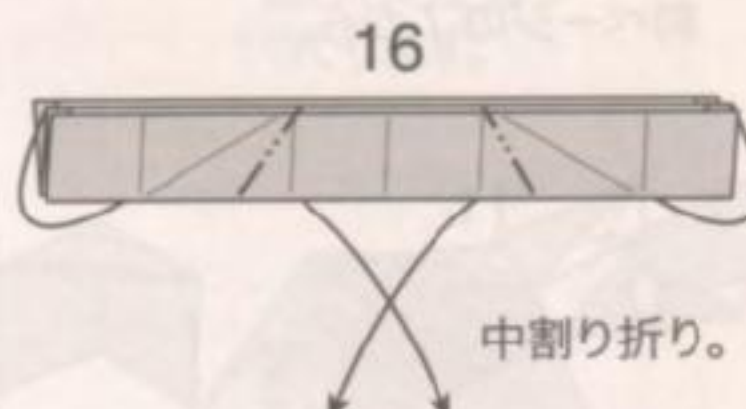
工程 13 は、角度 30 度に
折りたいのですが、ここで
は、 $\sqrt{3} \approx 1+3/4$ という近
似をつかっています。



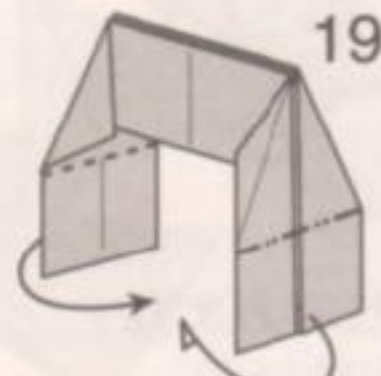
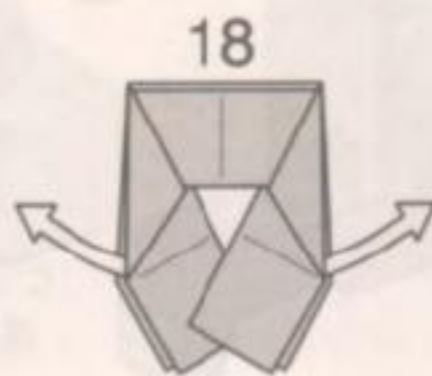
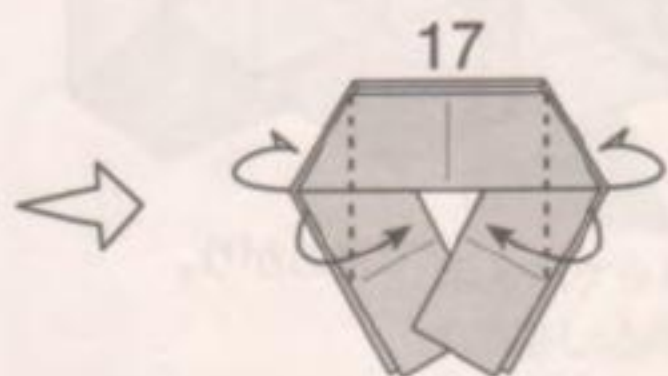
12 枚組、30 枚組は
ここまで。



13 までもどします。



中割り折り。



同じものを 6 つ
つくります。

Icosahedron

6 枚組



スリットに差し込みます。



できあがり。

Octahedron

3 枚組



できあがり。



12、30 枚組は、
14 工程までの折り目の
ものをつかいます。

Snub Cube

12 枚組



できあがり。

Snub Dodecahedron

30 枚組



できあがり。

糊づけなしに組めますが、
ややゆるくなります。



折り紙の 周辺

第52回
久米島紼
Kumejima Kasuri

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

寒い寒い冬だった。雪はさほどもなかったが、すべてが凍り付く日々。おかげで『霜の華』の写真はたくさん撮れた。年寄り二人暮らしの新潟の実家に電話で様子をたずねると、2度目の雪下ろしになかなか来てもらえない、つぶれることはないと思うが、春を待つ、ということだった。

そんな寒さの中、NOA琉球支部に呼んでいただいて沖縄に行った。街路にハイビスカスの咲

く環境で、日本は長いと感じた。研修は主に平織りをした。平織りは藤本修三、桃谷好英というお二人の世界に先駆ける研究がありながら、日本ではなかなか広まらなかったが、近年は海外で平織りだけを専門に折る人や、愛好者も増えてきた。敬遠する人は、基本線をつける手間が大変だし、同じことの繰り返しのように入るのだけれど、文句なしに美しいできあがりを見れば、日本でもきっとハマる人が多くなると思う。私も一年の何ヶ月かはハマっている。

折り紙研修の後、友人2人とタロ氏と落ち合って、久米島を観光した。友人のひとりとは退職した元学芸員で染織りが得意分野。久米島紼の製造元と博物館をたずねた。材料

をとり糸に仕立て、柄を決め糸でくくって染め、ようやく織り。工程の多さにはびっくりを乗り越して唖然とした。税として納めていたので、技術が進んだのだという。工程により分業されていた。できあがりには素朴を感じさせながら繊細で計算しつくされている。折り紙の平織りも、紙を作ることからはじめたらどれくらいの工程になるのだろう。

久米島では運のいいことに陸からクジラを3度見る事ができた。最後に見たクジラの一団が、尾を差し上げて海中に潜っていく様子は、広い広い海と空の間でちっぽけだったが、力強いと感じた。「元気で生きていって」と思わず願った。

第53回 **真蝶**

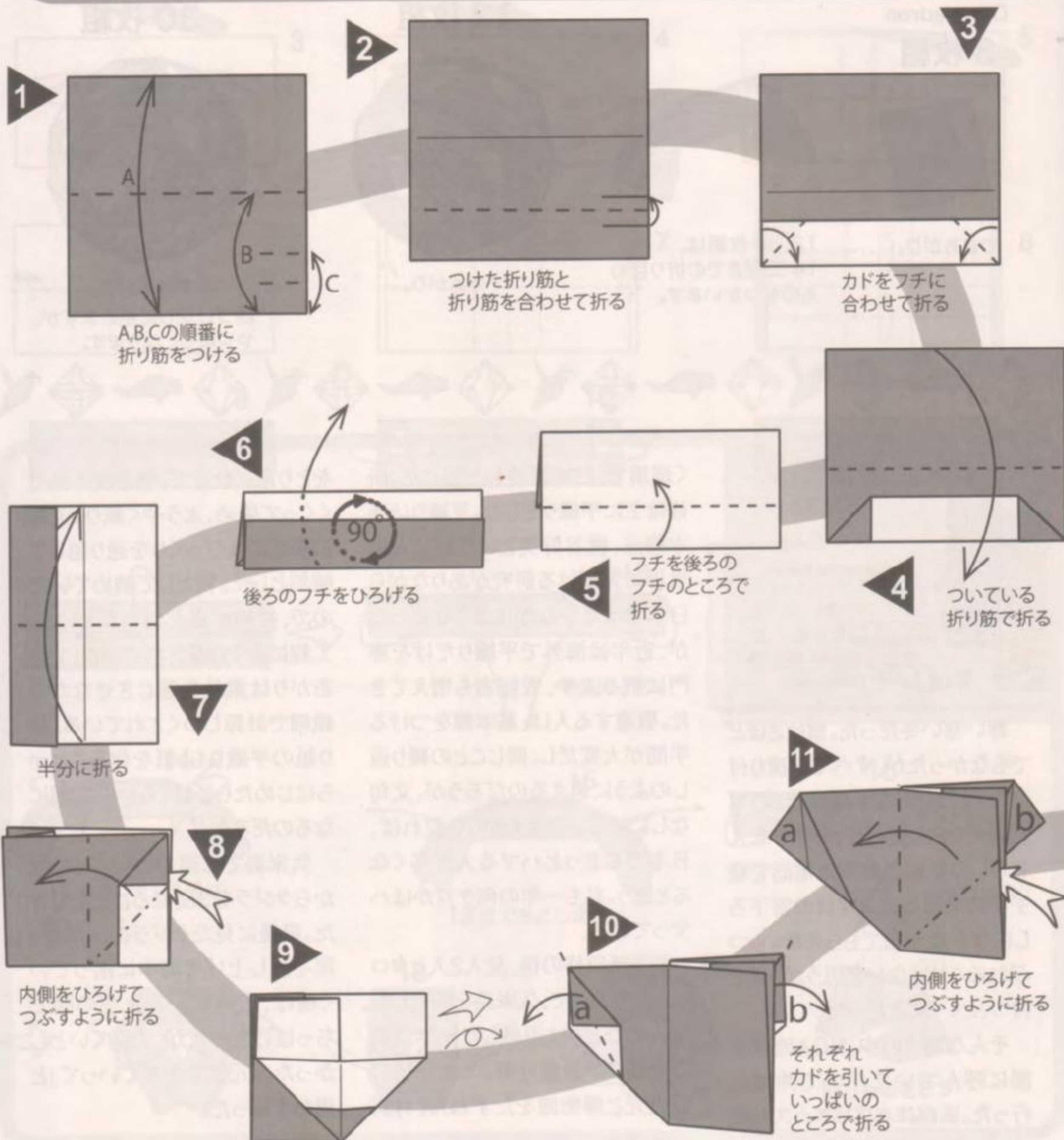
Makoto-cho
(Butterfly for Mr. Yamaguchi)

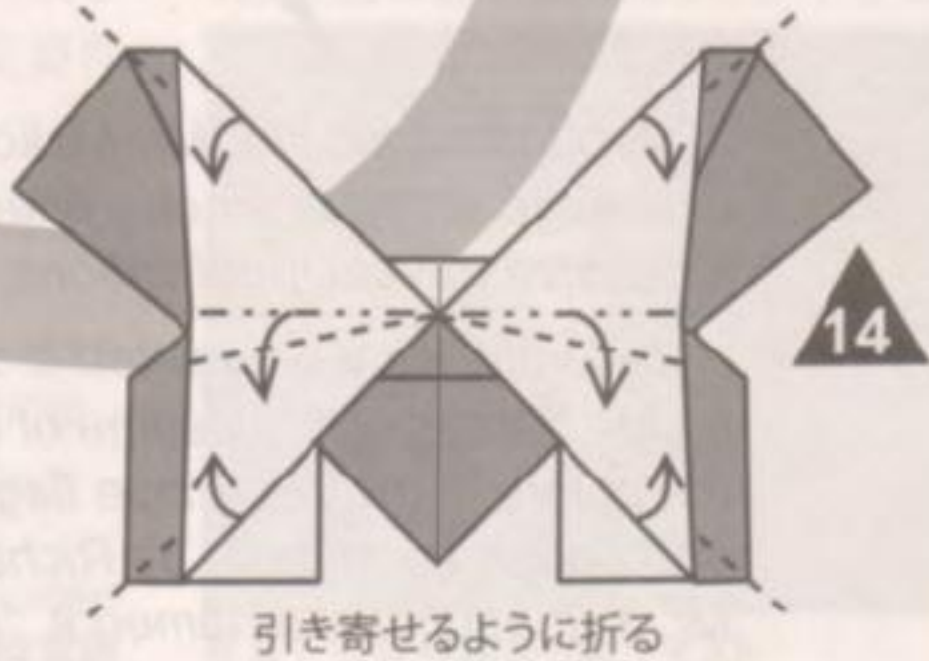
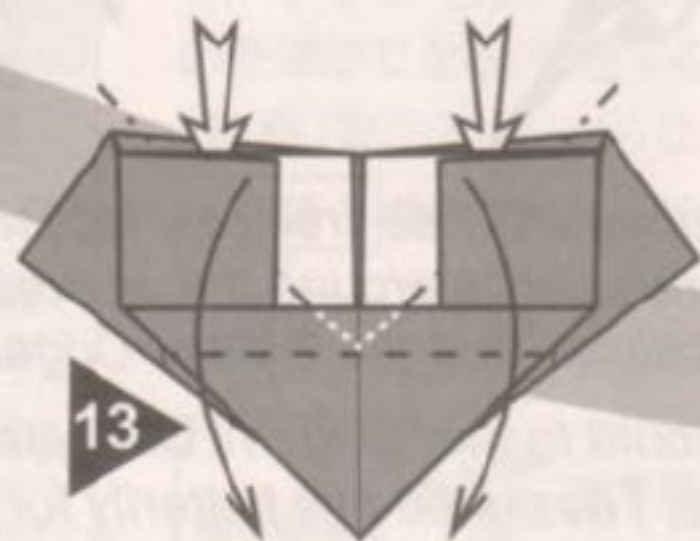
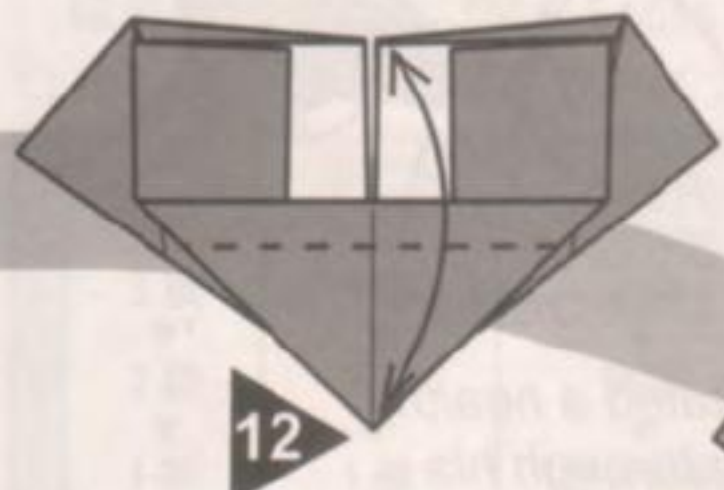
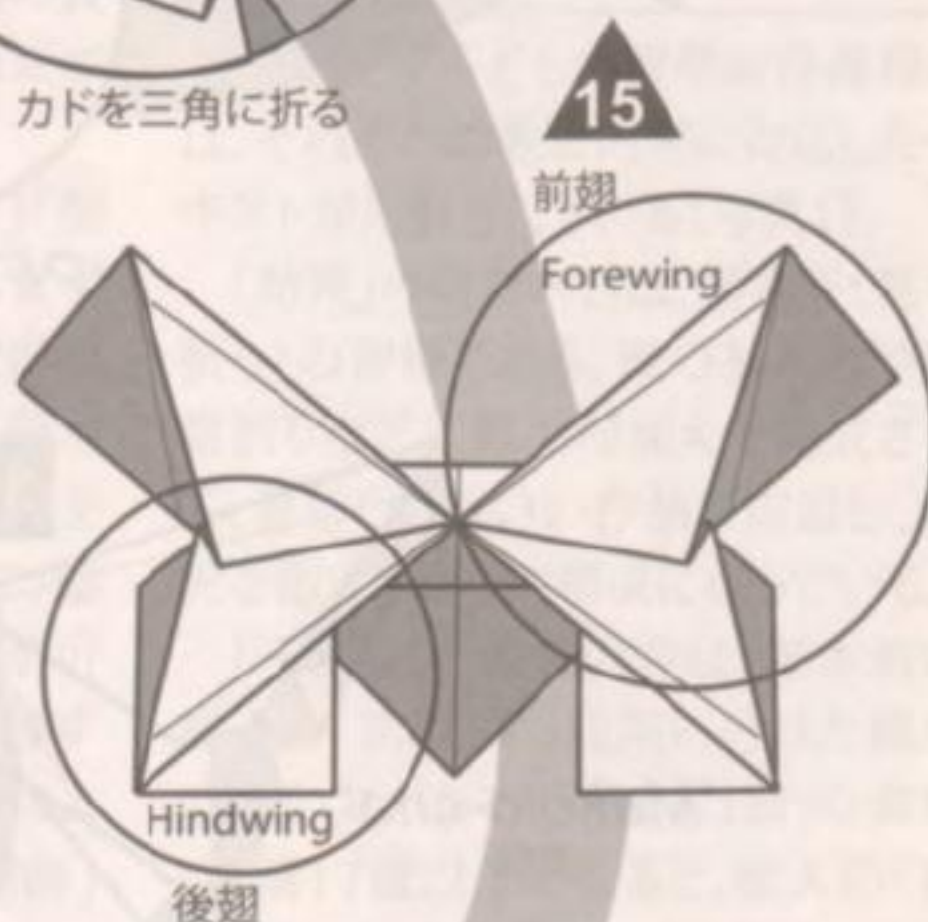
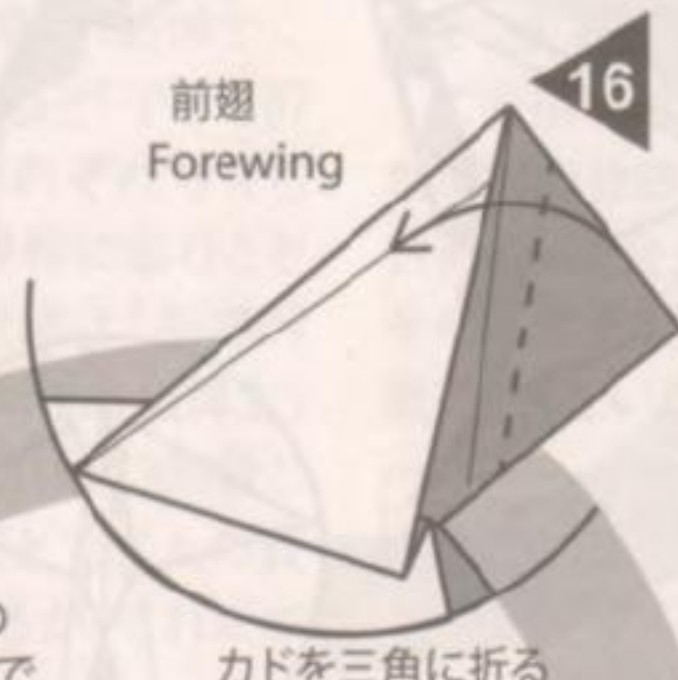
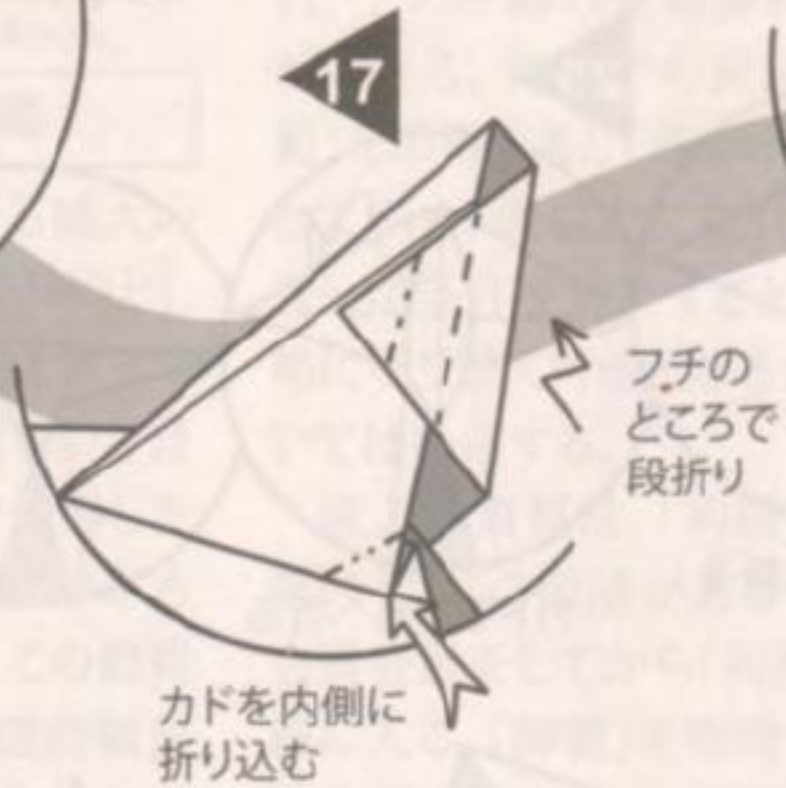
作・折り図: マイケル・ラフォース

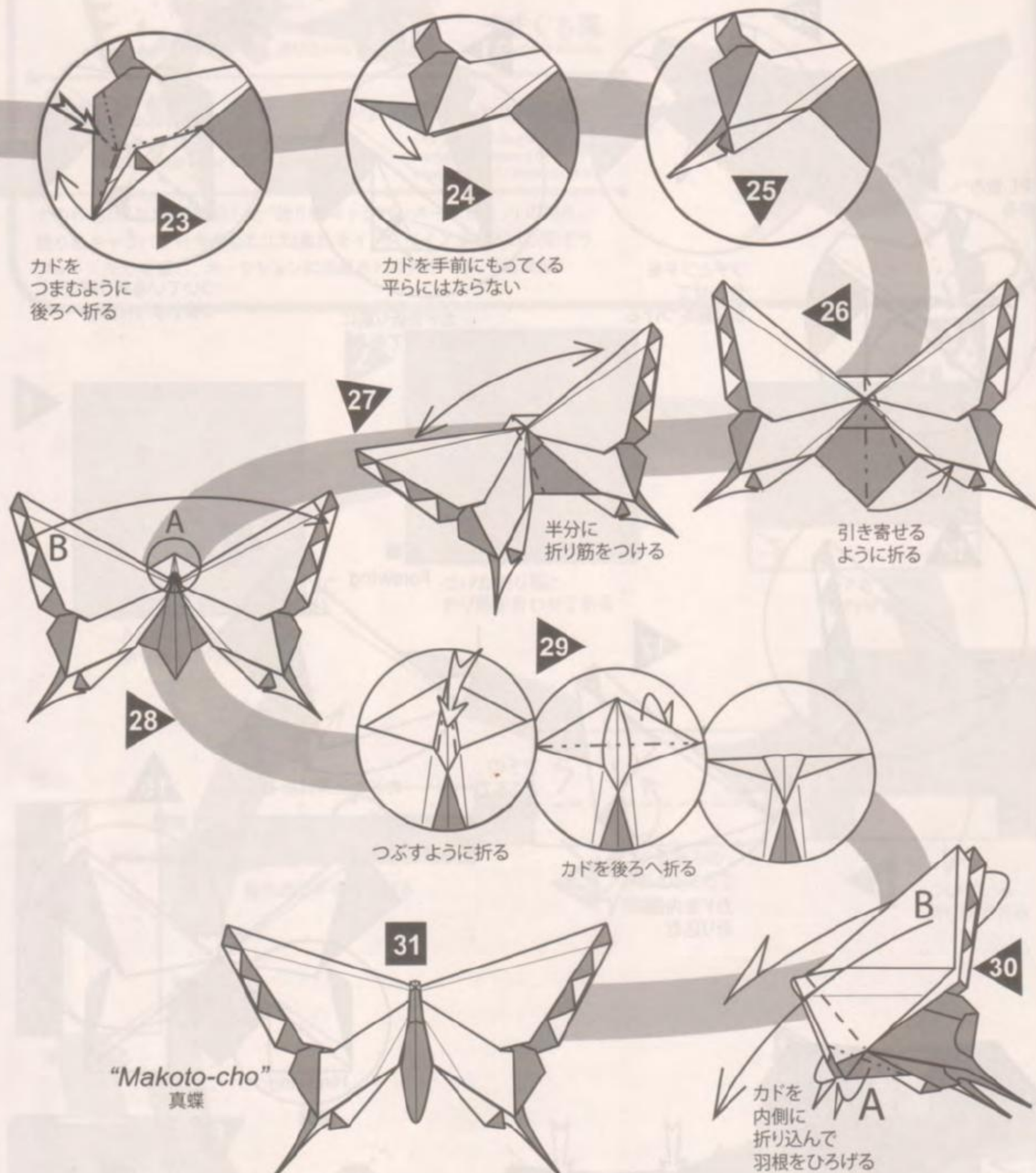
Designed and diagramed by
Michael G. LaFosse (USA)
Copyright 2012, Origamido, Inc.



この作品は130号で紹介した「折り紙キャラバンオークション」の際に、折り紙キャラバンを先導した山口真氏をインスパイアするという形でラフォース氏が考案し、オークションに出品された作品です。(編集部)







Throughout his life, Mr. Makoto Yamaguchi has tirelessly facilitated a healthy exchange of ideas among origami enthusiasts around the world, through his extensive travels, publications, exhibitions, and the Gallery Origami House.

Recently, we were invited to contribute to the "Origami Caravan" auction, and inspired by Mr. Yamaguchi's lifetime of efforts, I designed this butterfly for the auction. We chose the colors of the Japanese flag and I folded the auction example from our Origamido® duo paper, handmade by Richard Alexander. Out of deep respect and gratitude to Mr. Yamaguchi, we named it, "A Butterfly for Mr. Yamaguchi" - or, "Makoto-cho".

韓国における折り紙教育

Education of and for Origami in Korea

松浦英子
Matsuura Eiko

韓国の折り紙文化は独自の発達を遂げている。しかもそれは、会員1万人^{*}を誇る韓国折紙協会が、22年前に設立されて以降のことであり、その実態は、まだ国外に殆ど知られていない。筆者は、2011年度東洋大学大学院文学研究科教育学専攻の修了論文として『韓国における折り紙教育システムに関する一考察』と題し、この研究をまとめた。ここでは、本論文作成のために調査した資料から、現在の韓国における折り紙教育の特徴を概観して述べてみたい。

※成人のみの人数。資格取得課程の子どもは、会員登録は必要ない。子どもを含めると5万人に上るといふ。

1. 折り紙教育と資格の取得

韓国の折り紙文化における最大の特徴は、折り紙資格の取得を目的とした教育システムである。資格と言っても、それ単体で何か許可される訳ではなく、設定された教育段階を習得したという「証明」である。「検定」と呼ぶ方が分かり易いかもしれない。この資格には、子ども向けと成人(韓国折紙協会では満17歳以上が対象)向けがあり、韓国の人々は、この取得のために折り紙講習に通うのである。

韓国には、折り紙に関する団体が3つある。韓国折紙協会と韓国紙文化

財団、韓国伝統工芸文化協会である。それぞれ独自の資格システムを運営しているが、基本的な部分は同じである。本論では韓国折紙協会(以下協会と示す)のシステムを紹介する。

子どもの資格は、「幼児(未就学児)」「子ども(小学1~4年生)」「青少年(小学5年生以上)」に分かれており、それぞれ3階級ある(図1)。「幼児1級」を取得すると「幼児折り紙博士」、「子ども1級」を取得すると「子ども折り紙博士」の称号がそれぞれ与えられ、上の年齢の資格課程に進むことができる。青少年の資格は「指導師範」を取得すると「青少年折り紙博士」となり、17歳以上になれば、3階級とも一定条件を満たすことで成人の資格に切り替え可能となるが、それについては後述する。

成人の資格は、「初級」「師範」「指導師範」の3段階がある(図2)。まず会員登録をしてから「初級」の取得課程に入る。「師範」を取得すると、所定要件(セミナー参加、講師補助活動を一定時間行う等)を満たすことで、協会の「子どもの指導講師」登録が可能になる。「指導師範」までを取得すると、別途所定要件を満たすことにより、「子ども・初級・師範の指導講師」の登録ができる。後述する「支部」及び「教室」設立には、さらなる所定要件

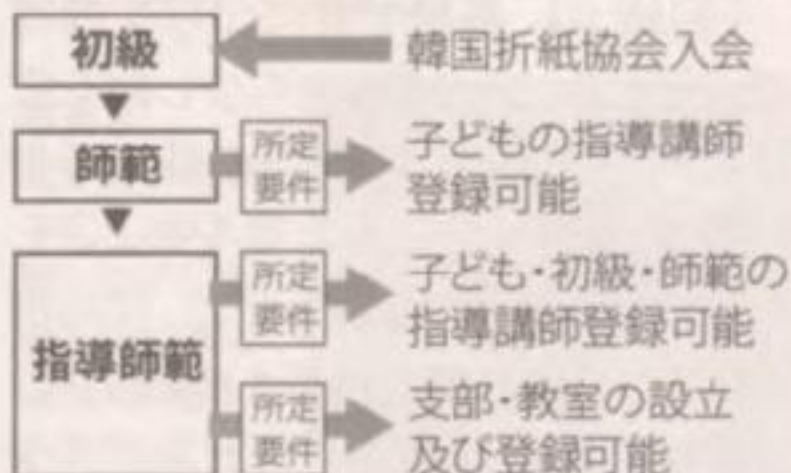


図2 成人(満17歳以上)の資格と講師登録

が用意されている。

成人の資格は「理論的な実力に裏付けられた創造的な折り紙の専門家」養成を目指したものであるが、多くは指導講師になることを目的として取得されている。

このように韓国の折り紙教育には、大きく分けて子どもの資格取得課程と、成人のための指導講師養成課程の2つがあると考えることができる。

この指導講師養成課程の生徒数と指導講師登録数、支部・教室登録数の合計が、協会会員数の1万人である。その女性比率は99%、平均年齢は40歳であるという。

2. 子どもの資格課程

成人及び子どもの資格取得課程には、それぞれの教育内容に対応したテキストが用意されている(写真1)。

「幼児」の教育内容は、基本形(基本折り)の習得である。風の基本形や観音折りなどに数工程加えて完成させる、易しくかわいい作品を収録し、幼児を飽きさせない構成になっている。

「子ども」の教育内容は、基本的に成人の「初級」を3段階に分けた構成である(このため、「子ども1級」の資格は、満17歳以上になると、成人の「初級」資格に書き換えることができる)。



写真1 各資格用折り紙テキスト

対象	幼児 (未就学児)	子ども (小学1~4年生)	青少年 (小学5年以上)
階級	3級 ▼ 2級 ▼ 1級 幼児折り紙博士	3級 ▼ 2級 ▼ 1級 子ども折り紙博士	初級 ▼ 師範 ▼ 指導師範 青少年折り紙博士
次の進路	「子ども」3級課程へ進級可能	「青少年」師範課程へ進級可能 [*]	満17歳以上になると所定手続き及び差分の履修を経て成人資格に切替可能

図1 子どもの資格

※「子ども3~1級」は、青少年の「初級」と同じ内容のため、「子ども1級」の取得で、青少年「師範」課程に進級できる

韓国における折り紙教育

Education of and for Origami in Korea

ここでも基本形の習得を軸とするが、幼児課程との違いは、難易度だけでなく、作図課題が加わることである。折り紙で折り図と同じ形を折って、折り図を再現する課題であり、これによって、折り紙への理解をさらに深めていく。

これらの教育内容は、「幼児」課程が各12項目、「子ども」課程が各24項目に分けられており、1項目を1時間で学習することを目安にしている。つまり「幼児」は、1階級を最短12時間、「子ども」は1階級を最短24時間で取得できるのだ。しかし毎回テキストの学習では楽しくなくなってしまう為、多くの指導講師は、課題の合間に別の作品制作の時間を取り入れているようだ。

幼児3級 ▶ 幼児2級 ▶ 幼児1級

各階級 12項目×1時間=12時間
(週1時間×月4回×3ヶ月)

1年程度

図3 「幼児」資格課程に必要な時間数

子ども3級 ▶ 子ども2級 ▶ 子ども1級

各階級 24項目×1時間=24時間
(週1時間×月4回×6ヶ月)

1年半程度

図4 「子ども」資格課程に必要な時間数

初級 ▶ 師範 ▶ 指導師範

各階級 16項目×3時間=48時間
(週2時間×月4回×6ヶ月)

※週3時間×月4回×4ヶ月という最短コース有り
※「青少年」の「師範」「指導師範」は8ヶ月程度必要

1年半 (最短コースは1年)

図5 成人の資格課程に必要な時間数

こうして週1回1時間の講習を受けた場合、「幼児折り紙博士」は1年程度、「子ども折り紙博士」は1年半程度で取得できるという(図3、4)。

「青少年」の「初級」は、成人の「初級」と全く同じで、テキストも同じものを使う。「師範」「指導師範」のテキストは、成人の「師範」「指導師範」から難易度の高い作品を数点除いた構成で、取得には成人よりもやや長い8ヶ月程度の時間をかける。「青少年」の資格は、図1に示したように、満17歳以上になると、成人の資格に切り替えることができる。「初級」は、事務手続きだけで可能であるが、「師範」「指導師範」は、除かれていた内容を履修することで、移行が可能となる。

このように、子どもの資格課程では、それぞれの発達段階に合わせて、基礎から発展までを身につけるように構成されており、希望すれば、将来的に成人の資格へ切り替えられるというメリットも用意されている。

3. 成人の資格課程

成人のテキストは、各資格とも16項目ずつで構成されており、1項目につき3時間、1つの資格につき48時間を必要としている。通常は2時間ずつの講習を24回、つまり月4回の授業を6ヶ月かけて履修する(図5)。

「初級」は、基礎を身につける課程で、「子ども」3～1級よりも少し幅を広げた内容である。10種類の基本形を習得するために、伝承作品を中心とした107点の折り方が収録され、沈め折りなどのやや高度な技術も登場する。

作図課題も10点課せられるが、「子ども」課程と決定的に違うのは、理論

教育が加わることである。「初級」では、折り紙や材料、色彩に関する基礎知識を身につけるようになっている。そしてその内容は、筆記検定で理解度を確認される。これら全ての課題をこなし、その証明書を必要書類とともに協会事務局へ提出して審査を通れば、初級資格の取得となる。

「師範」「指導師範」のテキストの掲載作品は、いわゆる創作作品であり、点数もそれぞれ45点、38点と少ない。「師範」には中・上級作品と共にユニットや平織り作品も登場し、「指導師範」は、コンプレックス作品を中心とした、高度な内容となっている。テキストの収録作品を単純に折るだけではなく、自分で素材や構成を考えて、「作品」として制作することも要求される。この課程にも、デザイン学や教育学などの理論教育があり、筆記試験が課せられる。この2つの資格でも、協会の審査を受けてからの合格となる。

以上のように、成人の資格課程では、折り紙専門家として活動するために、折る技術だけでなく作品制作の技術や理論的な理解も求められている。

4. 折り紙講習

資格を取得するためには、それぞれの団体が認定する指導講師の折り紙講習に通わなければならない。講習の形式は主に2種類あり、日本にもよくあるカルチャーセンターで開講されるものと、「支部」「教室」と呼ばれる塾形式のものがある。

カルチャースクールの方が比較的多人数制だが、それでも1クラスの定員は15人程度である。子どもの指導は一斉授業形式だが、成人は基本的

○松浦英子(まつうら・えいこ)=1972年生まれ。石川県白山市出身。名古屋造形芸術大学デザイン学科卒。2007年「本当に折り紙は教育に良いのか?」の答えを求めて東洋大学文学部教育学科へ編入。答えが出ずに大学院へ進学。2012年3月修了予定。



に個別指導である。成人の講習では、生徒はそれぞれの進度に合わせた課題に取り組み、講師は巡回しながら指導する。

日本人から見て珍しいのは、「支部」「教室」で行われる、塾形式の折り紙講習だろう。これらは講師の個人経営であり、雑居ビルの1室などを借りて開設されている。日本のそろばん塾や公文教室を想像してもらうと良い。子どもの指導は5~6人の少人数制で、1時間程度の課題に取り組む。成人の場合は、個人ごとに都合の良い時間を決めて2時間の指導を受ける。カルチャーセンターよりも丁寧な指導を受けることができるのが特徴だ。

これらの塾では、折り紙のみならず、韓国の伝統的な紙工芸も習うことができる。現在、協会では折り紙の他に14種類の工芸に対して指導講師資格を発行しており、塾を開設するには、この中から複数の指導講師資格を持つ必要がある。折り紙以外の工芸の技術と知識を併せ持つことにより、折り紙作品制作の幅も広げることが可能になっている。

5. 折り紙教材(パッケージ)

韓国の折り紙文化の大きな特徴の1つに、材料がセット組みされた教材=「パッケージ」の普及があげられる。子ども向けなら1時間以内で、基礎的な折り技術を使いながら、見栄えの良いものを作ることができる(写真2、3)。様々な大きさの紙を複数枚使い、紙以外の材料も必要だが、それも含めて全部揃っている。

このような「パッケージ」は、プロや企業が作るのではなく、殆どの場合

全国の講師達が考案し、材料を購入し、自らセット組みして個人販売している。元々は、自分の講習で使う分を多めに作り、講師同士で分け合っていたものが、次第に広く流通するようになったようである。人気のある商品は、1種類で3千セット売れることもあるという。現在は、通信販売や、委託による店頭販売などを使って、知らない者同士で購入できるものもある。

これらは、講師達の工夫と経験を駆使して、基礎技術しかなくても一定時間内に完成できるように考案されている。そのため、指導者側は授業準備を効率化でき、生徒側は基礎技術と短時間だけで立派なものが作れるというメリットがある。「パッケージ」は、多くの人を「折り紙」で効率良く楽しませる仕掛けなのである。

一方で、「パッケージ」を使った授業は、基礎技術は向上させられるが、創造性を培う面に欠けるという指摘もある。協会では、身近な材料でより教育性の高い授業を行うための講師教育



Folded by Choi, Hee Suk

写真2
小さい紙を複数枚使い、基本的な折りだけで作れる

写真3
紐を引っ張ると中のトンボが振動しながら進むおもちゃ。楽しく資格課題を作れるパッケージ



Designed by Song, Mi-Ryong

も実施しているという。

6. まとめ

「折り紙が教育に良い」とする考えは、日本以上に浸透しており、子どもが資格を持つことは進学にも有利であるという。韓国の人々が教育熱心な国民性であることは、国際的に認知された事実であり、これらが要因となって「折り紙を習いたい」という一定規模の需要を生んでいると考えられる。

この「需要」に指導講師育成という「供給」がなされ、その数が増えれば、講師達は自身の資質向上のために、より魅力ある指導内容と確かな指導力を求める。こうして常に発展する折り紙教育は、新たな「需要」を生み、韓国の折り紙文化は発展しているのではないだろうか。

成人の資格は「指導師範」が最上位だが、多くの生徒は、資格取得後も自分の講師を手伝いながら、そのスキルを学ぶという。そして実力をつけると、支部や教室を開設して独立するのである。独立以降も、講師達は教育の質向上のための勉強に余念がない。

協会には、このような資格課程以降の学習と講師活動を支援するために、インターネットによる会員管理や情報提供、セミナーやワークショップの開催、作品展示会の支援、パッケージの企画販売など、豊富なコンテンツを用意している。そしてそれらは、会員である熟練の講師達によって運営されているのである。

このような、会員による会員のための教育と学習の仕組みは、若い世代を引きつけ、協会が発展し続けている理由の一つであると考えられる。

折紙探偵団友の会地域活動通信

Story of Origami Tanteidan Group

第2回 静岡友の会

Shizuoka Group

鈴木美恵子

Suzuki Mieko

関西友の会

Kansai Group

立石浩一

Tateishi Koichi

第2回目は静岡友の会と関西友の会を紹介します。静岡は主婦が中心になっていてアットホームな集まり。関西友の会は神戸女学院大学のキャンパスをお借りして開かれています。

静岡友の会は、初の地方開催となる静岡コンベンションの準備委員会として発足しました。1998年3月、静岡市の山口真氏の自宅での打ち合わせに参加したのは山口氏以外わずか3名。会合を重ねるうち参加者は8名程(鈴木も途中参加です)に増えはしたものの小勢であることに変わりはなく、各々できることは精一杯やらねばと意気込んで準備をし当日を迎えたものでした。

第1回静岡コンベンションは予定を上回る160名程の参加者がありました。これは各自が積極的に周囲に参加を呼びかけたり、チラシを配ったり、さらには市教育委員会からの後援を取りついたり、新聞に紹介記事を書けるよう働きかけたりした努力の結果でした。

直前に教室数を増やすなど、スタッフは対応に大奮闘でしたが、おりがみはうすや西川誠司代表(当時も)をはじめとする探偵団主要メンバーの全面的なご

協力をいただき、成功裡に終わることができました。(しかし、この時のいわば他力本願的な体質は以降も改めることができず、静岡コンベンション運営の弱点であり大いに反省すべきでありました。)

第2回の時には地元TV局の番組に生出演し、一言宣伝を行っています。静岡の駅前で、吉野一生さんの恐竜骨格などを示しつつカメラの前でドキドキしながらアナウンサーとやりとりしたものです。

その後静岡コンベンションは第7回まで開催されましたが、教室・懇親会・宿泊がすべて一箇所のできる理想の会場であった「たちばな会館」が耐震の問題で解体されることになり、以降開催地を名古屋に移すことになったのです。

定例会としての静岡友の会は、2000年4月頃から「やさしい折り紙の好きな主婦を中心とした」集まりを持つことで始まりました。

毎月第4月曜日(現在は隔月の第1日曜日)、会場はコンベンションの打ち合わせと同じく静岡市の山口氏の自宅、増武ビルの3Fをずっと使い続けさせていただいています。1Fは静岡の紙処・紙遊館ますたけで、山口夫人の都さんのお店です。材料調達はもちろんのこ

と、「ますたけさんのブログを見て友の会に来ました」という方もあり、様々な面でお世話になっています。

当初ははっきりとした代表を立てることもなく、「なんとなく」続けていた会でしたが、2年程前一念発起し改めて話し合い、辻和之さんを代表に決め、2010年4月からは友の会公式ホームページ上でおおのひろみさんによる例会報告も始めました。現在では参加者十数名と小規模ながら、主婦だけでなく男性の常連さんも加わり、毎回凝った作品を発表してくれる折り紙少年もいます。

午前は講習、午後は情報交換が主な活動ですが、教える側・教わる側に分かれずに、自由に意見・情報交換をし合う場こそが友の会の面白さだと思いますので、午後の部にも参加してくださる方がもっと増えるといいな、と思っています。

女性が多めの集まりならではの、子供の学校行事や老親の介護などで一時お休みのメンバーもちらほらですが、一区切りつけばまた戻ってきてもらえるようにこれからも息長く活動を続けていきたいです。

折り紙好きならどなたでも大歓迎です。お近くの方、一度静岡友の会に参加してみませんか? お待ちしています。



▲初期のコンベンションでは西川氏始め、布施知子氏、前川淳氏等の参加で盛り上がった



▲コンベンションでの教室風景



▲コンベンションに毎回参加してくれた折紙探偵団の名付け親で初代代表の木村良寿氏の教室



▲現在の例会。主婦が中心でとても自由な雰囲気での例会風景。男性の方の参加も歓迎です



○鈴木美恵子(すずき・みえこ)=1962年生まれ。静岡県富士市在住。静岡友の会・連絡係です。最近どんどん進む老眼にまっています。細かいものを折るのがだんだんおっくうになってきました。もう「5cm角悪魔」は折れそうにありません。

○立石浩一(たていし・こういち)=後3年すると60SME、それまでは本職の学校での管理職。折る時間がどんどん減っていく。



関西友の会は流浪の友の会です。

1999年末、初代代表の新本祐一さんの呼びかけに応じて、有志で長岡京市産業文化会館に集まったのがすべての始まりでした。その時は世浪健さんが講師で複合モノの昆虫をみんなで折った覚えがあります。

年末に、もう1度集まりがあって、そこでコンペションをしようじゃないかということになった、らしいです。らしいです、というのは、私はその場にいなかったからです。とにもかくにも2000年4月29日に第1回折紙探偵団関西コンペションは長岡京市産業文化会館で開催されたのです。

その後は、2ヶ月に1回長岡京で例会、というペースを維持しつつ、地味に活動を続けておりました。一番苦労したのは、おりがみはうすのような、「センター」が無い所で、文字通りゼロから活動を開始したので、コンスタントにある程度のレベルの講師の方をお願いすることが大変だった、ということです。初期は、例会の後、いつも長岡京のちゃんこ料理屋で宴会、というのがお決まりのパターンでした。

コンペションの会場は、第2回、第3回、第4回は、京都駅前のキャンパスプラザ京都を、最初は私が当時京都の大学に勤務していたので、その後は同志社大学のデボラ・フォアマン・タカノ先生にお願いして、割引きで借りて使っておりました。当時はまだあの施設も京都の各大

学がそんなに頻繁に使う、という程ではなかったの、借りやすかったのです。このあたりから、活動も軌道に乗り始めました。

この頃の話で記憶に未だに新しいのは、David Shallさんを始めとして、海外からの関西友の会へのお客さんをお招きして席を設けての懇親会等を頻繁に行っていたこと、京都山科の折上神社(おりがみじんじや)にて年に1回折り紙の展示会及び講習会を行っていたこと、そして、初期からのスタッフメンバーであった湊さんの突然の訃報です。湊さんが亡くなったあたりから、関西友の会の問題点がいろいろと浮き彫りになってきたような覚えがあります。

一番大きかったのは、スタッフが勤め人の男性中心だったので、コンスタントに活動を維持するのが次第に息苦しくなってきたこと、また、作家ではなく愛好家中心の活動だったので、代表の新本さんも他の皆も、強い牽引力を持って何かをするぞ、という力に欠けていたことでしょうか。新本さんの東京へのご転勤があったあたり、2004年の第5回大会から、コンペションの会場が2回だけ、神戸大学百年記念館に移ったのもそのためです。

私は、一度も、代表をでは引き受けましょう、と言ったことは無いのですが、いつのまにか、そういう役割で動いているようになっていました。第7回のコンペションより、会場を神戸女学院大学、つまり、私の勤務先にしたのもそのためです。京都と阪神地区をまたがって活動出来るのが理想だったのですが、京都での会場探しが不調に終わったのです。

神戸女学院に移ってからは、新機軸として、地方コンペションでは初めて海外ゲストをお招きし、神戸女学院大学大学院通訳翻訳コースの院生たちによる同時通訳をつけるなどしました。例会も、



▲David Shall氏と新本祐一氏。懇親会で

この前後に、長岡京の会場を押さえて下さっていた方のご体調不良により、神戸女学院中心となっていきました。

そうして、いろいろと紆余曲折を経て、現在に至るのですが、第10回のコンペションあたりが、スタッフ全員が働き盛りで極めて多忙な上、例会のマンネリ化もありいわばピンチでした。このピンチにいろいろアクシデントが重なって、第11回のコンペション直後一時活動を停止しました。

それでも、一番多くの回数コンペションを行った地方友の会として、継続をしよう、という思いが強く、今回第12回コンペションを行わせていただきました。日替わりの講習受付番号、通訳のつく海外ゲスト講演会、など関西が(勝手に)最初に行ったことは数多くあります。これからも、関西流で、年3回の例会と年1回のコンペションを軸に、活動を続けていきたいと思っています。



▲コンペションに毎回のように参加している宮島登氏の講習風景



▲コンペション全体会会場風景

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

堀口直人

Horiguchi Naoto

29 冊目 資料収蔵の現状報告

Origami Archives Progress Report

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

多くの方の協力に支えられ、日本折紙学会で収集整理している資料数も堅調な伸びを見せている。今回は個別の資料紹介という形ではなく、収集整理された資料の現状を概観してみたい。

【書籍】

本誌119号の同連載記事において、登録済み書籍数が国内外併せ1000冊を超えたとの報告がなされたが、その後も登録数を増やし2012年2月末現在で1890冊に達した。各折り紙団体が発行している雑誌数を含めると、所蔵冊数は2000を確実に超えているだろう。特に昨年は書籍のみで300冊近い登録増があった。

一因として、昨年の東日本大震災を受けた「折り紙キャラバン」活動が挙げられる。この活動に対し寄せられた多くの寄付の内、希少と判断した書籍を日本折紙学会が買い上げ書庫資料として有効活用するという形を取らせて頂いた。もちろん買い上げ金は全額震災復興の為に寄付金として活用している。

こうしたキャラバン活動経由で追加登録された書籍はこれまで166冊にも上る。過去の収集活動で手の届いていなかった書籍を多く加えることができ、寄贈してくださった方々には重

ね重ね感謝申し上げたい。表1を見ると前回の報告で課題とされていた80年代前半出版分の所蔵量も克服を見せ、最新分も満遍なく所蔵できている。

【図書外資料】

書籍以外の資料整理も着実に進んでいる。2012年2月現在16カテゴリー1232点が整理され、閲覧可能な状態となった。表1を見ると、書籍量増加に若干遅れ、80年代後半、90年代前半に倍増と増えている。おそらく折り紙史の転換点を反映したものと思われる。即ちおりがみはうすがオープン、折紙探偵団の設立、そして『をる』が創刊した時期だ。折り紙とメディアとの関わり方や露出の位置づけにも変化があったろう。こうした折り紙の現代史を将来考察する上で、収蔵資料は貴重なデータとなりうると考えている。

今回は16カテゴリーの図書外資料をさらに大まかに5つのジャンルに分け、紹介していく。(カッコ内はカテゴリー名)

1) 研究資料:「論文」・「折り図」

「論文」は、折り紙に関する学術

論文や紀要の抜粋、学会発表の要旨など124点。ジャンルとしては川崎敏和氏の数学、岡村昌夫氏を主とする歴史文学、他には宇宙工学の分野が多く、発表年も2005年以前が大半を占めている。現在注目を集めている情報科学分野の論文は少なく、今後学会として傾注せねばならない部分であろう。また、折り紙の科学・数学・教育研究集会で用いたレジュメなども発表者の同意の下収集を進めている。一例としては2011年7月に報告のあった「折り紙著作権 判例研究 その1」のレジュメなど(写真1)。この分野も今後充実させていきたい。

「折り図」は未製本版を集めたもので、日本人作家が作成した58点と海外作家が作成した179点から成る。未発表の折り図もあるが、現在では何らかの形で公表された折り図も多い。

2) 折り紙を取り上げたメディア

これは紙媒体とその他でさらに分類できる。

*紙媒体:「印刷」・「展覧」・「新聞」

「新聞」は折り紙を取り上げた新聞記事の切り抜き191点。外国の新聞も含まれる。1980年代後半から90年代前半の記事が充実している(写真2)が、一方で最近の新聞記事は収集できていない。

「展覧」は折り紙を扱ったイベント・

展覧会における配布資料やポスターなど59点。1975年開催の「第一回世界折紙展」告知ポスターといった古い品(写真3)の他、海外でのイベント資料も数多く収集している。

表1 図書館資料の年代別所蔵数

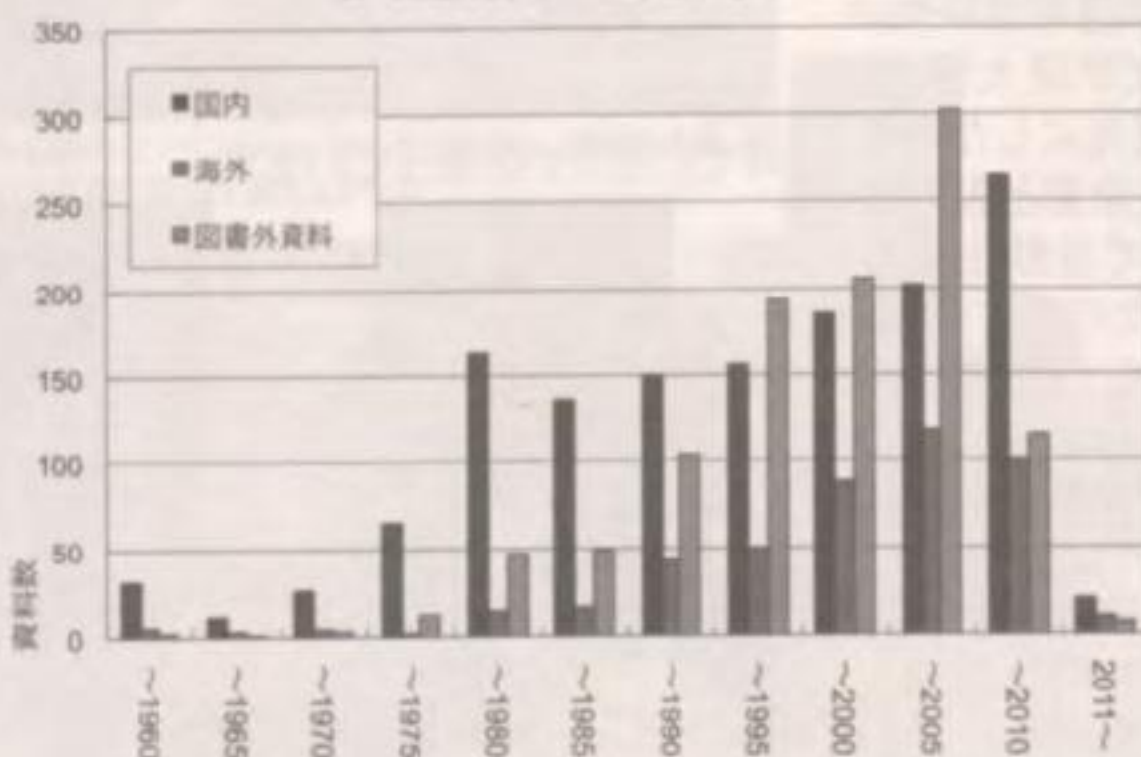


表1

折り紙における著作権の研究 判例検討一その1

報告者: 日本折紙学会評議員 西川誠司
資料協力: 日本折紙学会評議員 小松英夫
2011年7月3日(日)

▲写真1

○堀口直人(ほりぐち・なおと)＝
1983年神奈川県生まれ。
書庫整理を担当。
資料は片付いていますが人生は
散らかりっぱなしです。



「印刷」カテゴリーは、その他雑誌、広報誌等で折り紙を扱った記事・資料など260点。最も多いカテゴリーであり、折り紙作家の紹介から、企画物の折り図、折り紙イベントを取り上げた雑誌記事、折り紙が掲載されている漫画の切り抜きに至るまで、内容も多彩だ(写真4)。

＊非紙媒体:「キット」・「映像」・「マスコミ」

「キット」はカレンダー、特殊な付属品が付いた折り紙用紙、その他おもちゃなど29点。「映像」は折り紙に関連するDVDや写真が収められたCD等61点となっている。折り紙が取り上げられたテレビ番組の録画映像もごく一部存在するが、まだ全体から見て収集が進んでいない。テレビ出演の際の台本などを収めた10点が、「マスコミ」となっている。

3) 個人資料:「手紙」・「はがき」

「手紙」は学会に寄せられた投稿、情報提供など52点。「はがき」のカテゴリーの55点には、過去おりがみはう

すで催された展示会の案内はがき約40点も収蔵されている。

4) 折り紙団体資料:「協会資料」・「学会資料」・「海外団体」・「コンベンション資料」・「吉野基金」

各折り紙団体の入会書類、会員向け資料などが収められている。「協会資料」が20点、「学会資料」が33点、「海外団体」が8団体51点。「協会資料」では1970年代に行われた定期講習会のテキスト、折紙ニュースの一部なども閲覧できる。「学会資料」には会員特別配布資料のバックナンバーの他、折り紙の知的財産権に関する資料などもある。

「コンベンション資料」は、各折り紙団体ごとに当日の配布資料や、講義で配布されたレジュメなど。こちらは6団体25点。「吉野基金」は、吉野一生基金で来日した海外折り紙作家から寄贈された資料15点となっている。まだ未開拓のカテゴリーでもあり、質量ともに増加が見込まれる。

上記15カテゴリー以外に「その他」を設けている。数は少ないが、一例としては点字による折鶴の折り方説明など9点。

これら図書外資料は現在ウェブからの検索に対応していない状態であ

り、直接「折紙図書館」にお越し頂く形でしかリストを確認できない状態であるが、今後はより気軽に閲覧して頂けるよう、整理を進めていきたいと考えている。

閲覧に際しては、原則的に第1を除く土曜日13:00-17:00が可能となっている。図書館へお越しになる際は、事前にlibrary@origami.gr.jpまでお申し込み頂きたい。

表1 JOAS図書館収蔵資料の年代別分布。2011年以降は2012年分までのみ。なお、発行年不明の資料が国内図書23点、海外図書13点、図書外資料は191点存在する

写真1 「第10回折り紙の科学・数学・教育研究集会」での西川誠司氏報告「折り紙著作権 判例研究 その1」の発表資料

写真2 目黒俊幸氏の「おりお」開発を伝える新聞記事(朝日:1993/7/5)。折り紙設計の解説図もある

写真3 1975年に開かれた「世界折紙展」を宣伝する電車で刷りポスター。同展の作品一覧パンフレットも所蔵している

写真4 「印刷」資料の一例。折り紙が掲載された漫画の近くに、故吉澤章氏の特集記事が収められていたりする(それぞれ『少年サンデー』2006年52号と1974年の『毎日婦人』)



▲写真2



▶写真3



▲写真4

22.5度系創作法

Creating Models Based on 22.5° for Novices

小松英夫 Komatsu Hideo

第6回 パーツからの創作

Designing Parts of
a Complex Model Modularly

第1～5回で解説してきた方法は、最初に基本形の構造の全体を作ってから、その後で少しずつ変化させ改良していくというものでした。これとは逆に、対象の一部分から作り始め（例えば、ペガサスを作るときに翼から……のように）、構造の全体は後で決めるという方法もあり、よく使われています。

■花にとまる虫

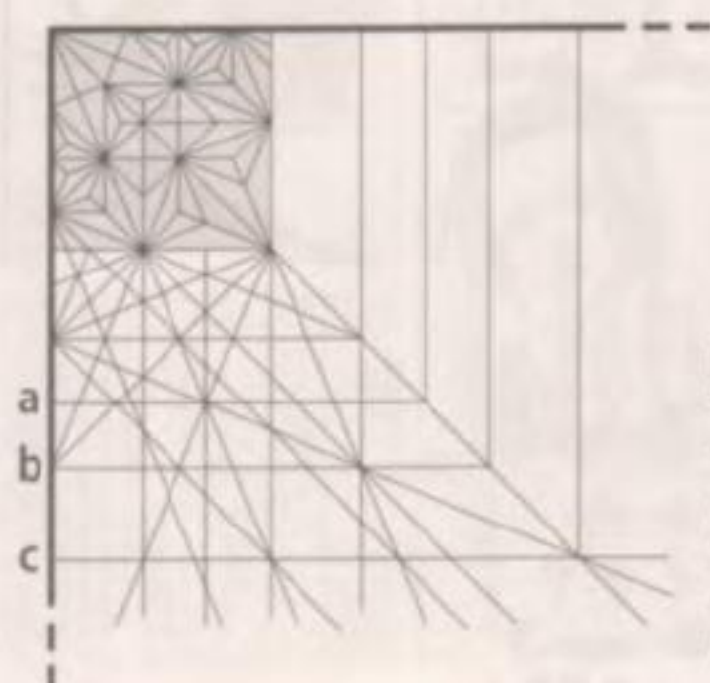
パーツからの創作の実例として、前回完成した「虫」の展開図を流用して、派生作品を作ってみます。虫を、作品の一部を構成するパーツと見なすわけです。作るのはこの虫が花にとまっているところ（図1）。いわゆる1枚2体折りです。

まずは、花の部分を作り出す分の紙のスペースが必要です。虫の展開図を縮小して、羽のカドが内側になる向きで、正方形のすみにそのまま置きます。次に、すでにあるカドの頂点から線を伸ばすようにして〈22.5度メッシュ〉を書き込んだものが、図2です。メッシュはあまりごちゃつかない程度に適宜線を足して、分子の配置パターンを発想したり、正方形の大きさを検討したりする手がかりにします。

はじめに検討したい問題は、単体では用紙の辺上にあった後ろ足と腹部が内部カドに変わることによる影響です。紙のヒダが入り組む内部カドの折り出しでは、実際に折ってみて問題点に気づくこともあるため、最初は正方形を小さく取って、この周辺のみを試作することから始めてみましょう（図3）。



図1: 目的の形のイメージ。虫のお腹の下の方から花になるカドが生えている形を漠然と考えています。花のイメージはあまり明確に決めていません



○試作1（図4～6、写真1～2）

メッシュ部分に分子を配置します。このとき押さえるべきポイントはひとつ。もうお分かりですね、後ろ足と羽それぞれの円領域の大きさを確保するように分子を配置する、ということです。

○試作2（図7～8、写真2～6）

試作1-2で昆虫部分が折り出せることが確認できたので、花まで含めた試作に入ります。試作1と同じように、メッシュから正方形を選びます。このとき、なるべく簡単な比率を選ぶと良いでしょう。花部分をどう折るかは試行錯誤を伴って考えればよいので、ひとまず正方形を大きめに取って様子を見ようと図2のcを選び、試作を試みました。

○試作3（図9、写真7～8）

試作2-2で紙を持て余した状態になったので、正方形の大きさを試作2よりひと回り小さく取ります（図2のb）。結果、花びらの数は少し減りましたが、問題の接続部分が適度な長さになりました。これで完成としましょう。最終的な比率を見ると、用紙を4分割した単純なものになっています。あらかじめ意図しなくとも自然と美しい結果に辿り着いてしまう、これこそ22.5度系の創作ならではの面白いところです。

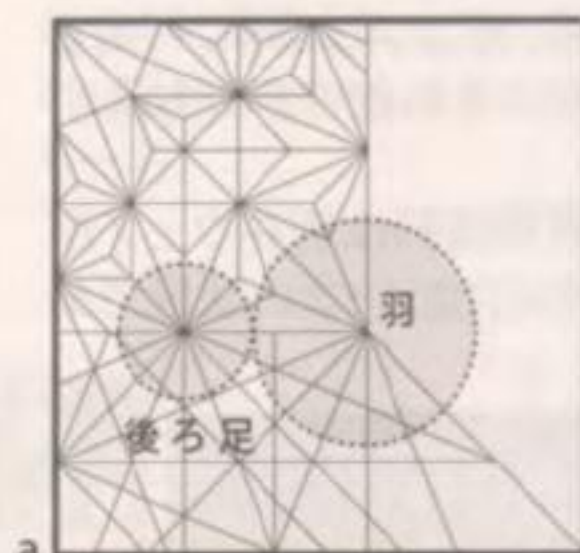


図3: 後ろ足と羽が折り出せる程度の大きさを探し、図2のaの正方形でメッシュを“切り取り”ました

図2: 正方形の大きさはまだ未定なので、右下方向に開かれた図になっています。本文で「展開図を縮小」と書きましたが、展開図の外側にメッシュを拡げた、と考えることもできます。自己相似性を持つメッシュでは大きさは相対化されますので、あくまで作業上の感覚で、ということです

■メリットとデメリット

メリット:

- ① 有用なパーツをストックして応用できる
- ② 対象の特徴的な部分を先行して折り始めることができる
- ③ 造形を部分的に確定させることで、その後の取捨選択がデザインの整合性から行いやすい

デメリット:

- ① パーツの構造によっては、うまく繋げられない場合がある。特に崩した構造を持つパーツ同士の直接の接続は難しい
- ② 展開図全体の最適化が難しくなることがある

デメリットの①の対策としては、パーツを考える際に、あらかじめ繋げやすい構造にしておくことです。作例の昆虫も、後ろ足～羽がほぼ単純な分子のみで構成されていたため、比較的簡単に行きました。

②は、部分的な構造を切り貼りしているうちに、どうしても無駄な領域ができてしまいがちになるという問題です。カドの数が少なければ、多少の非効率性は問題にはなりません。的確なカド配置が求められる複雑な対象ではそうは行きません。そのような対象を折るときは、はじめの時点で全体的なカド配置のプランを立てた方が良いでしょう。

〈パーツ〉と言うと造形的な要素が含まれる印象がありますが、ひとまとまりの折り線パターンそのものを素材として考えても発展があります。図10はその一例です。使えらと感じたパターンに出会ったら、その可能性をとことん研究してみてください。

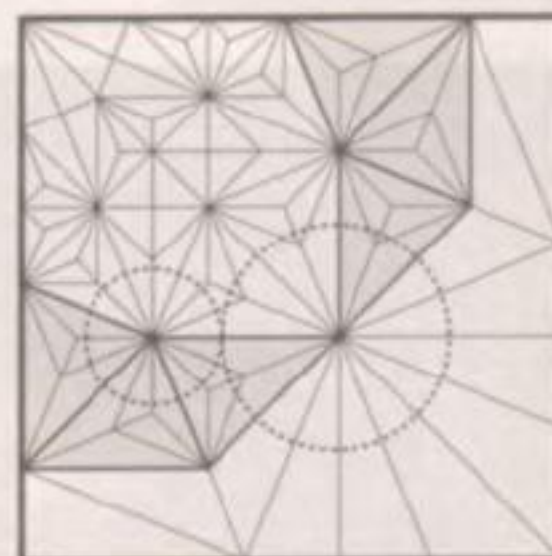


図4: 試作1-1. 円領域の大きさを確保するためには、同じ分子を対称的に配置するのが常套的な方法です



写真1: 図4の展開図を基に折った虫部分。羽のカドは虫単体のときと同じ長さが出ていますが、全く同じ仕上げ方（図5）は不可能でしたのでただの段折りになっています

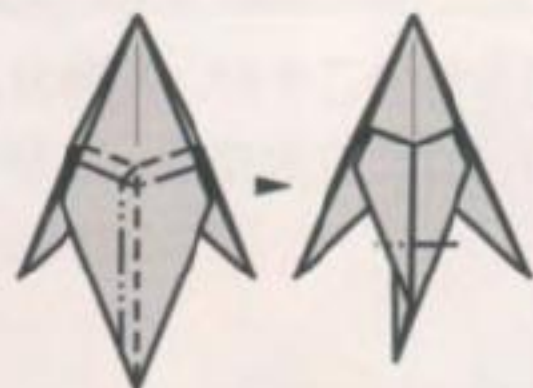


図5: 虫(単体)でしていた羽の仕上げ。足のカドの根元ギリギリでしているつまみ折りが、図4の展開図ではできません

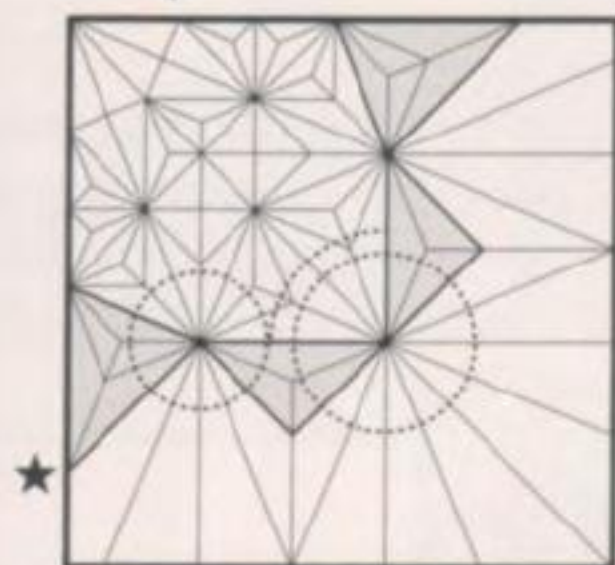


図6: 分子を置き換えた試作1-2。羽の円領域が少し小さくなっていますが、試作1-1より扱いやすいパターンです。特に頂点★が無駄なカドにならないことで、虫パーツと花の接続部分がきれいに繋がっています



写真2: 図6の展開図を基に折った虫部分。羽の仕上げは、カドの内側をつぶしながらずらすように折っていて、円領域が小さくなったことによる影響がこれで解消できています



図7: 〈切り出しナイフ型分子〉をはめて、4枚の花びらを折り出した試作2-1の展開図

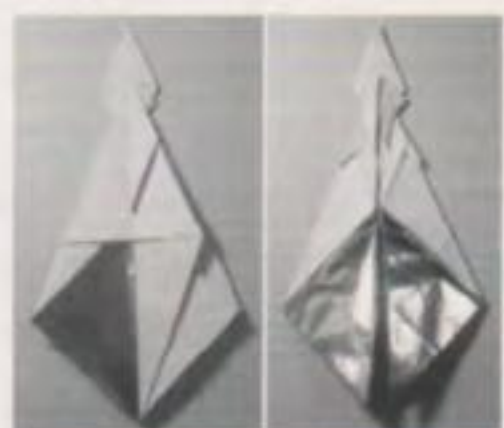


写真3: 試作2-1の基本形



写真4: 試作2-1。少し花が大きめですが、虫と花の接続がちょうどいい長さ加減です。花の色はインサイドアウトで表現できました

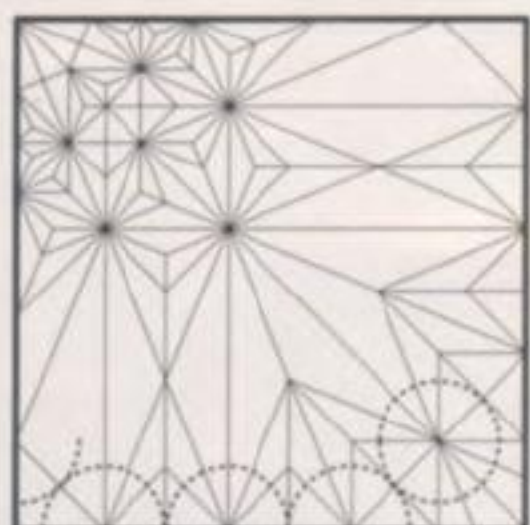


図8: 花びら4枚では花に見えづらいかもしれない……と、花びらを増やしてみた試作2-2の展開図。ナイフ型分子ではなく、長方形分子を使っています。展開図の右下には、前川流の「5本指」状のパターンがありますね



写真5: 試作2-2の基本形



写真6: 試作2-2。花びらが増えて花らしくなりました。ただ、花びらが小さくなった分だけ接続部分が長くなり、仕上げの際に持て余してしまっています

○小松英夫(こまつ・ひでお)=1977年生まれ。日本折紙学会評議員。宮島登さんがウェブ公開している「文系作家の行き当たりばったり創作法」(<http://www.h5.dion.ne.jp/~origami/design.html>)もよくまとまったテキストですので参考にしてください。本連載の執筆にあたっては、西川誠司さんにさまざまなご助言をいただきました。お礼申し上げます。

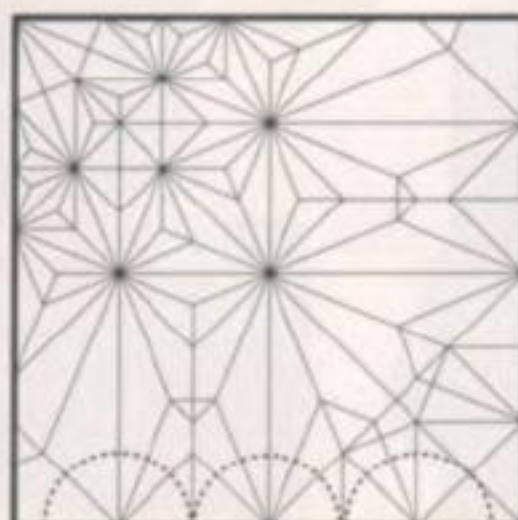


図9: 試作3の展開図。図8と見比べてみると、長方形分子の縦横比を変化させていることが分かります。筆者は実際には試作2・3とも試行錯誤先行で作り、これらの展開図は後で描いたものですが、試作2-2から試作3への変化なら、折る前に設計が可能な程度かもしれません

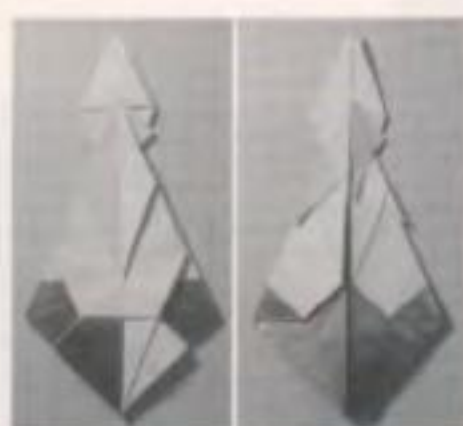


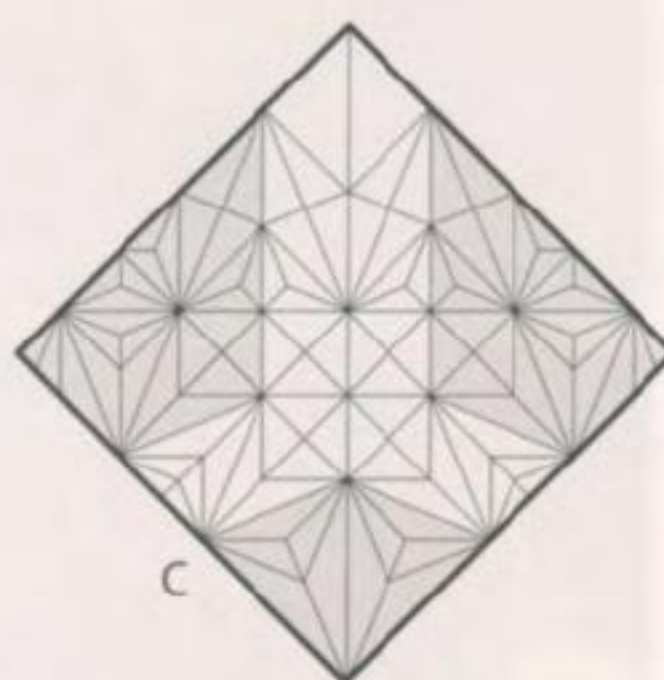
写真7: 試作3の基本形



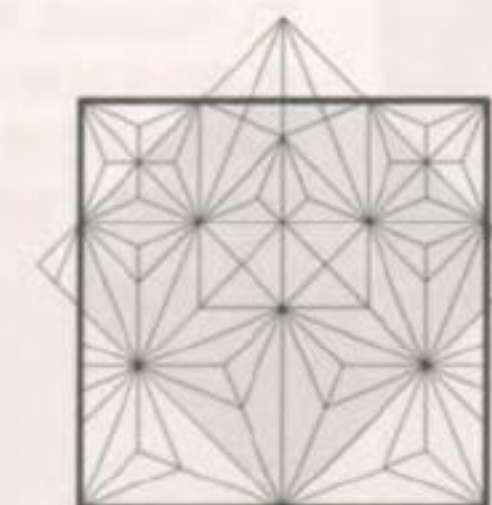
写真8: 試作3 → 完成



A



C



B

図10: 「虫」の展開図を素材にした再構成いろいろ。ずらしたり(A)、回したり(B)、切り分けたり(C)……。特に何を作るでなしに、展開図で遊んでみると楽しいものです。直接作品にはなくても、思わぬ創作の種が見つかることも

URL: <http://origami.gr.jp/~komatsu/kigaruni/>
本連載で登場した展開図のデータを公開しています(高画質の画像やORIPAファイルなど)。また、設計例に用いた作品について、フリー素材としての利用条件も書いてあります。

いざというときに役立たないものの代表格のような折り紙だけど、まさにそういうものこそが、人間の人間らしい部分を形成してゆく重要な部品になるような気がします。寒さと暖かさも行ったり来たりしながら、ゆっくり、ゆっくり、少しずつ。



「りっボウタイ、ボウタイユニット」

作：前川 淳(P.4)

Ritz Bow Tie, Bow Tie Unit:
Maekawa Jun (P.4)

■「前川節」がエンジン全開な題名の幾何立体群、さまざまなバリエーションが増殖し続けています。熱中して組んでいるうちに、多面体を頭の中でしっかりイメージして自由にぐるぐる回せるようになってきたらしめたもの。多面体ワールドの奥底へ、さらに脱出困難な没入状態への道がひらけてきます。



「真蝶」

作：マイケル・G・ラフォース(P.8)

Makoto-cho (Butterfly for Mr. Yamaguchi):
Michael G. LaFosse (P.8)

■アニメーションに出てくる蝶の翅が、違和感なく見えたことはほとんどないような気がします。翅の模様をどこまで細かく描き出すのが適切なのか、絵でも折り紙でも非常に悩むところ。題材にまっすぐ向かいすぎると不気味になってしまう、かといって要素を削りすぎるのもなんだか違う。そもそも元からして不気味なものなのかもしれない…。という堂々巡りをしているときにラフォース氏の作品に出会うと、ひとすじの光明が差ししてきたような気分になります。

北米-ペルー Photo Report

■海外のさまざまな地域で交流の輪を広げている山口氏、今回の出張要請は北米と南米。新たに出会ったさまざまな表情、熱気あふれる講習の様子を、P.36のレポートと併せてご覧ください。



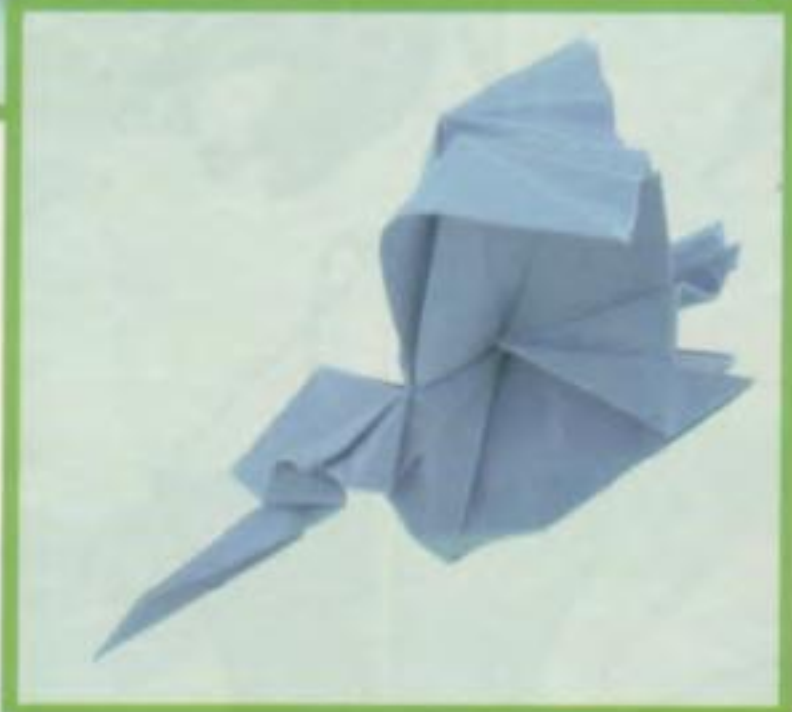
▲アトランタのジョージア工科大学紙博物館での展示



▲マイアミのフロリダ国際大学での講習



▲アトランタ・サバンナ芸術デザイン大学での講習、マコトコマを回して楽しむ参加者



「カワセミ」 作：萩原 元(P.22)

King Fisher:
Hagiwara Gen (P.22)

■伝承の「小鳥の基本形」をここまで自在に変化させてしまう技術力、対象へ向かう多角的な観察力。こんな作品を目の当たりにすると、眩暈と羨望をミキサーにかけたような、気持ちがちょっとざわつく感覚に襲われます。折り図には複数のポーズを折り分けるための詳細なステップも掲載されていて、さらなる応用にも着手しやすくなる材料が揃っています。

「死神」 作：宮本宙也(P.34)

Grim Reaper:
Miyamoto Chuya (P.34)

■要所要所のインサイドアウト、不切1枚折りで複数物体(人物と鎌)の折り出し、存在感あふれる立体加工。多面的な魅力を高密度で同居させているこの作品が、果たして本当に折り図になり得るのか!? そんな余計な心配もなんのその、今年度の会員配布資料に無事収録されることになりました。



◀マイアミのウェスタン高校で日本語を勉強しているクラスの生徒達。先生も講習に参加していた



▲プロジェクターを使って折り紙キャラバンの報告(リマの日秘文化センターにて)



▲「できたー」と作品をかける参加者達(リマのチョリジョス区立文化センターにて)

カワセミ king Fisher

萩原元 / Hagiwara Gen

創作 / Model xx/11/2011

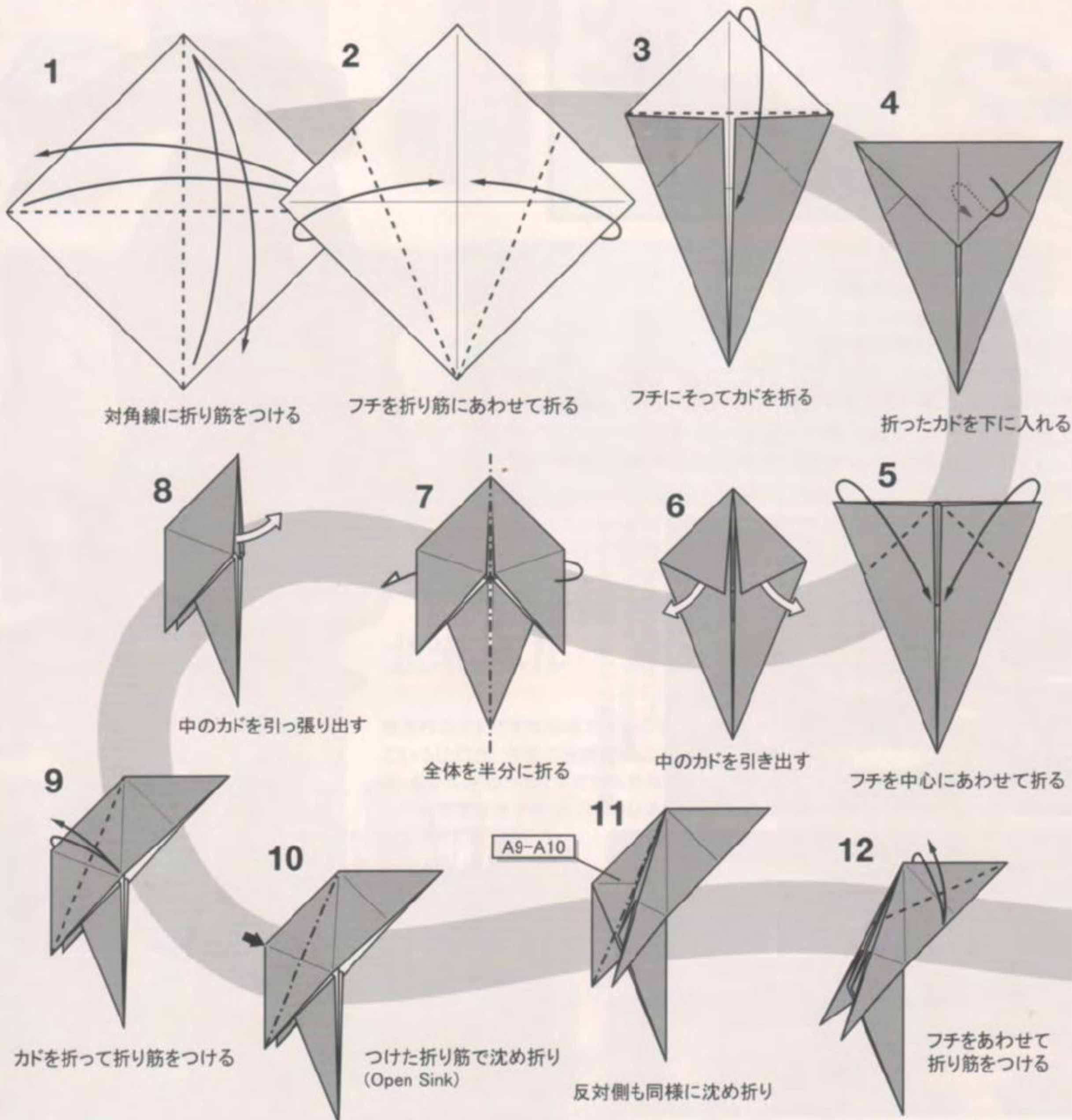
作図 / Diagrams xx/01/2012

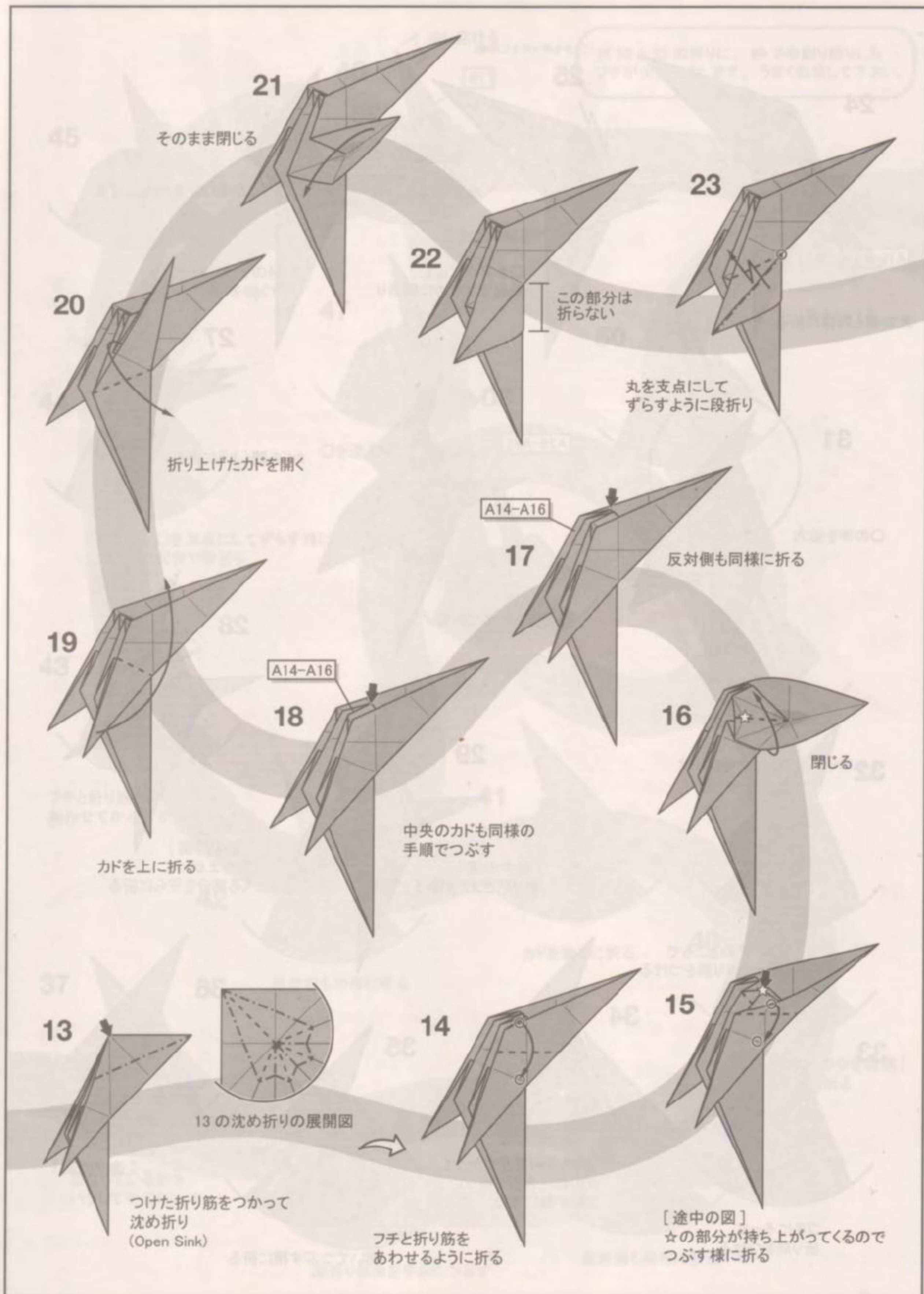
ポーズ A 

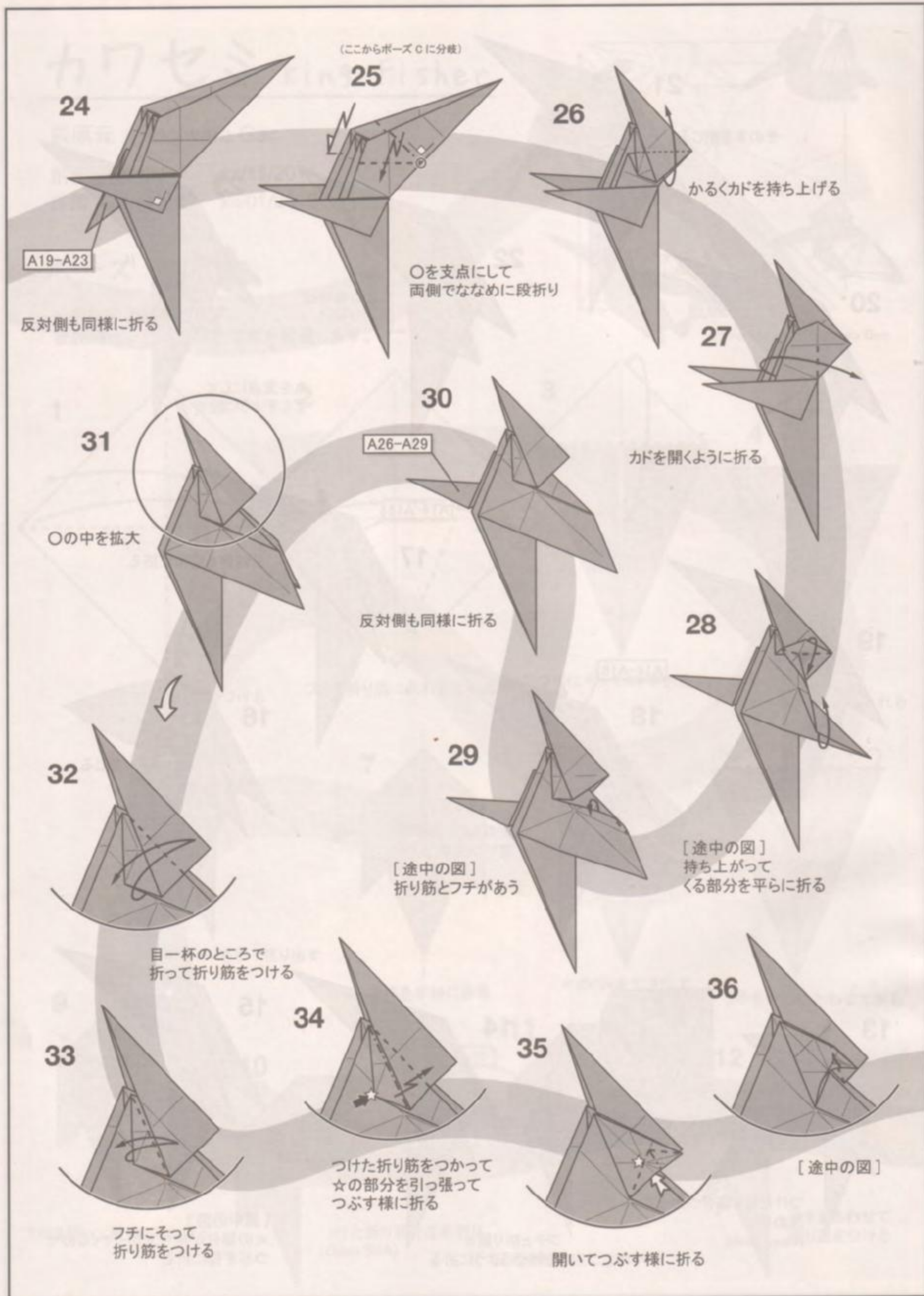
一部に紙の裏が出ます。
表裏同色または近似色の紙を推奨します。



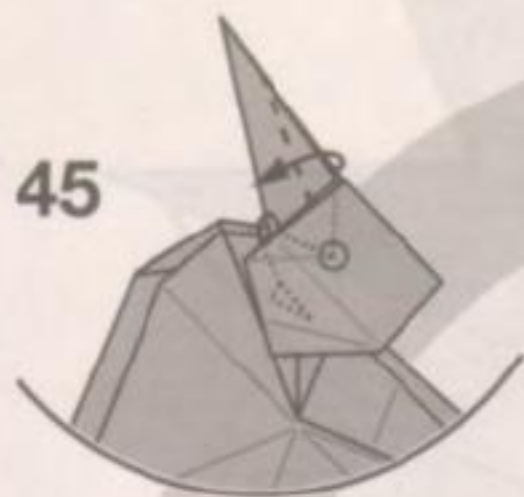
King Fisher by Hagiwara Gen





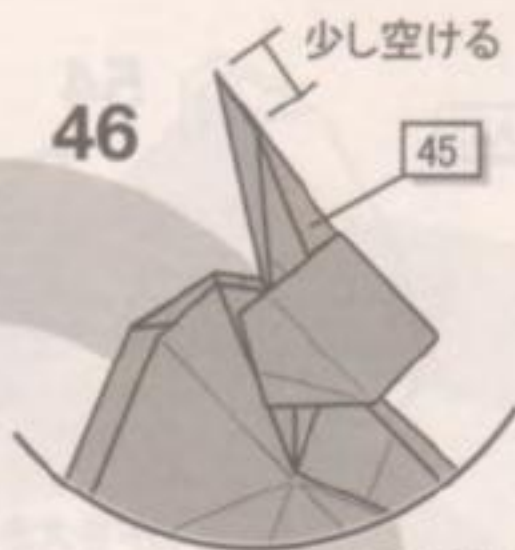


45



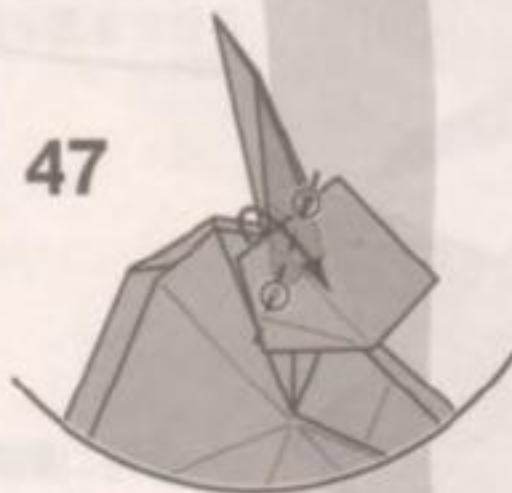
引き寄せ折りの様に
折ってカドを細くする

46



反対側も同様に折る

47



○を通る様にカドを折る

50



ずらす様に段折り

51



折り筋をつける

44



○を支点にしてずらす様に
両側で段折り

48



元に戻す

49



折り筋をつかって中割り折り

43



フチと折り筋を
あわせてかぶせ折り

42



反対側も同様に折る

41



カドを後ろに折る

40



〔大きいカドの中を透視〕
カドを後ろに折る

37



重なっている紙を
バラして手前に出す

38



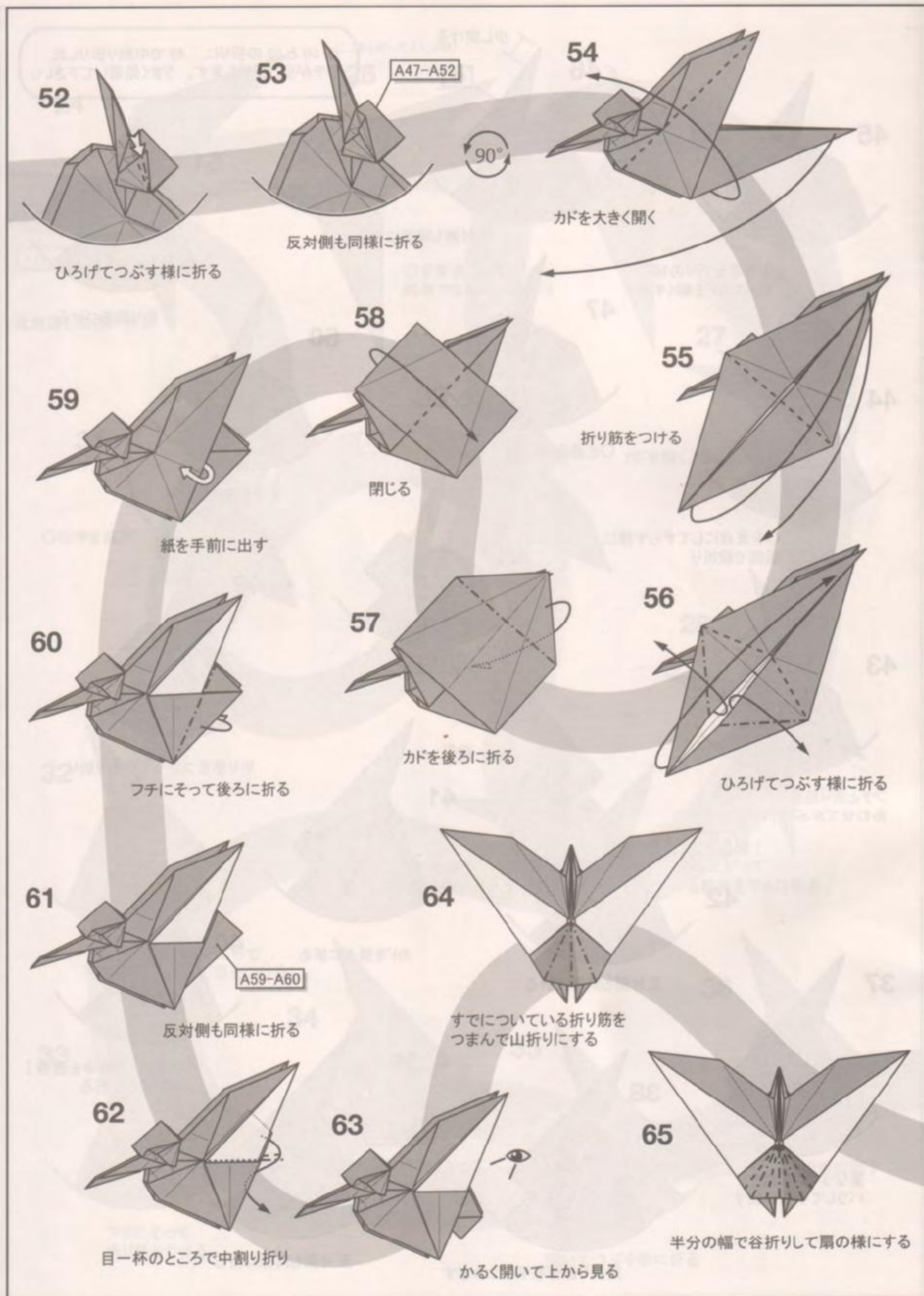
段折り部分を平らにつぶす

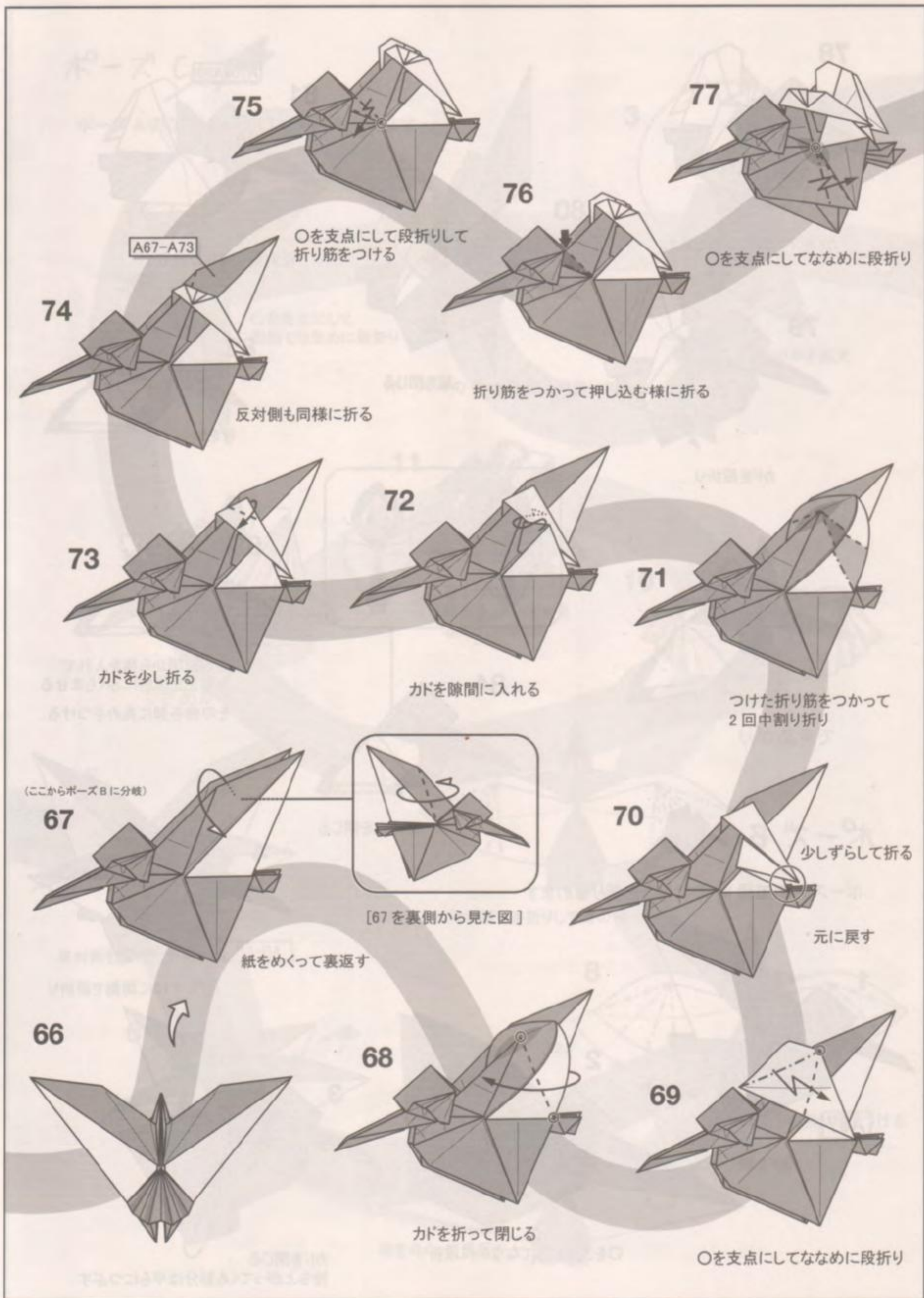
39



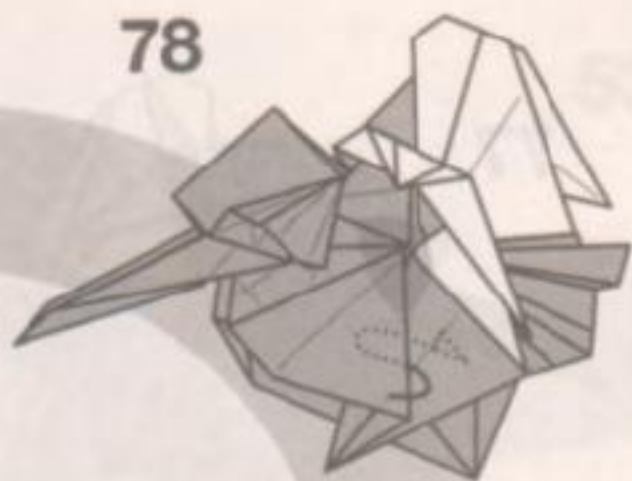
反対側も同様に折る

※ 50 と 52 の折りに、49 で中割り折りした
フチが少し干渉します。うまく処理して下さい。





78



カドを下の隙間に差し込む

79



カドを段折り



できあがり

80



翼を閉じる

81

A75-A80



反対側も同様に折る

82



目を開く

83

首の隙間から指を入れて
胸部を立体的にふくらませる
その他各部に丸みをつける

84



首の穴を閉じる

ポーズB



ポーズAの工程67の状態から折り進めます

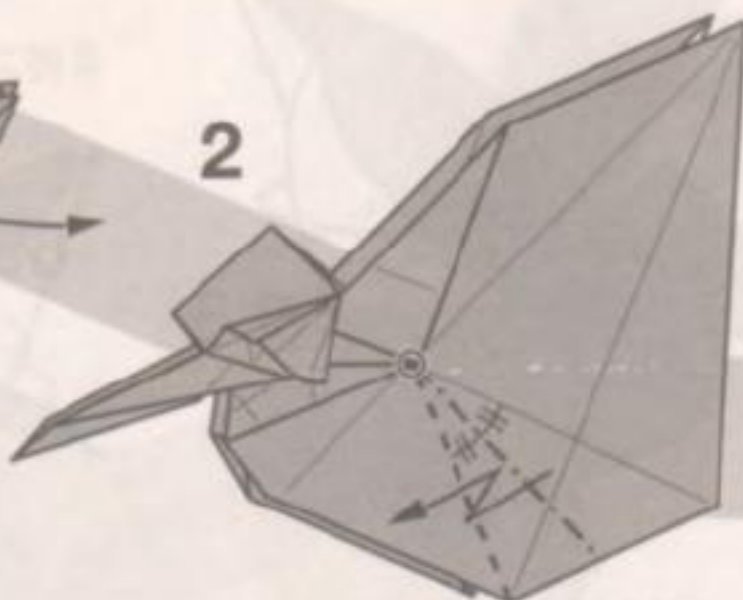
1



A67

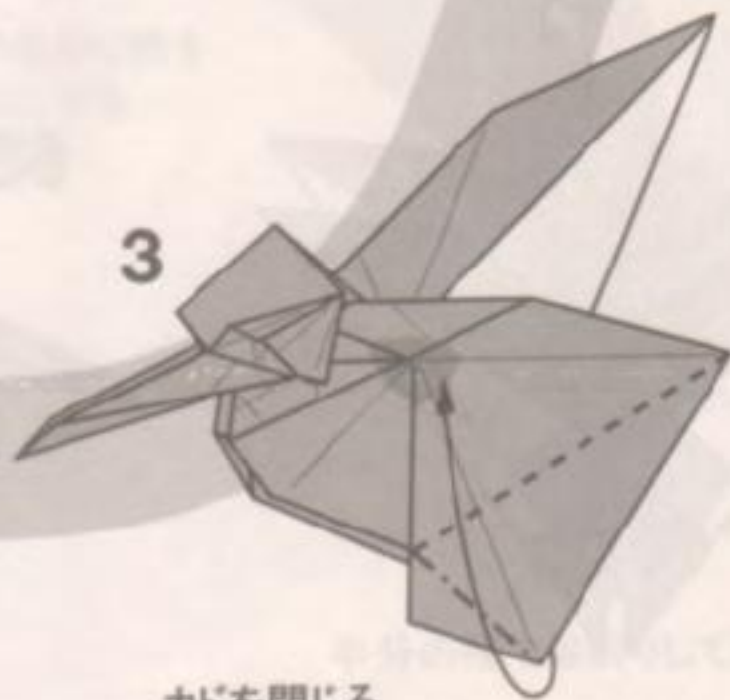
カドを開く

2



Oを支点にしてななめに段折り

3

カドを閉じる
持ち上がってくる部分は平らにつぶす

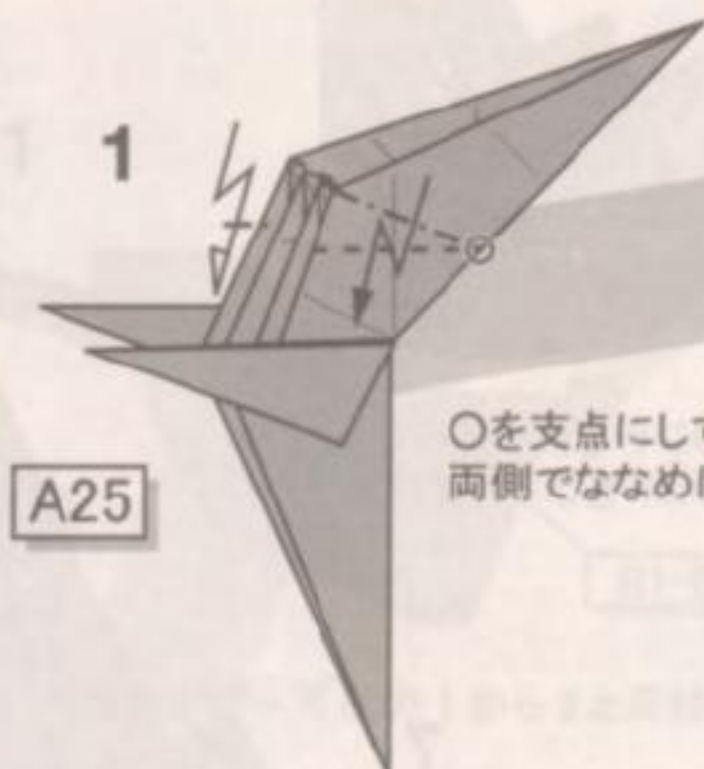
4



ずらす様に両側で段折り

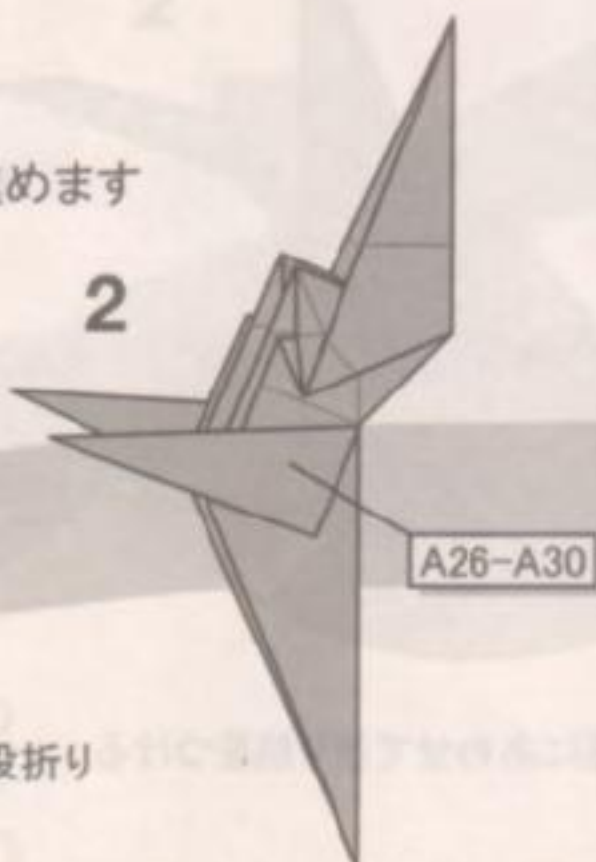
ポーズC

ポーズAの工程25の状態から折り進めます



A25

○を支点にして
両側でななめに段折り



A26-A30

ポーズAの26から30と同様に折る



○の中を拡大



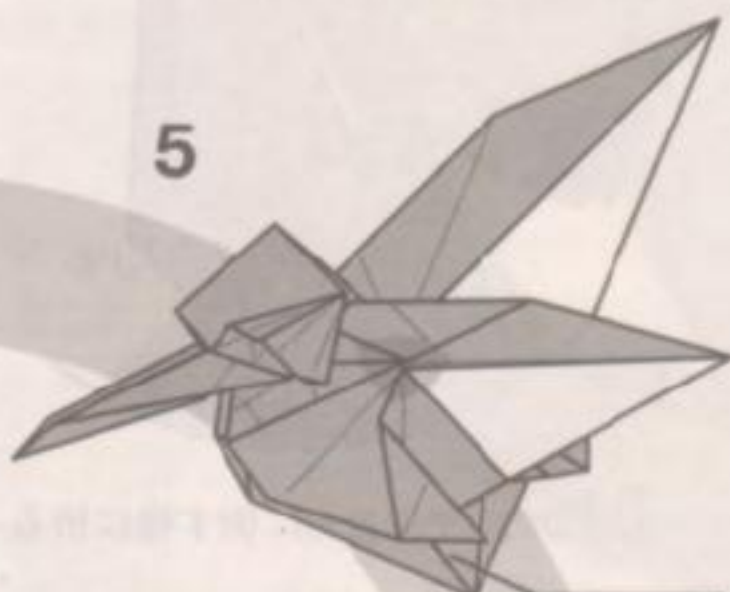
できあがり



目をつくる
胸部をふくらませる
首の穴を閉じる

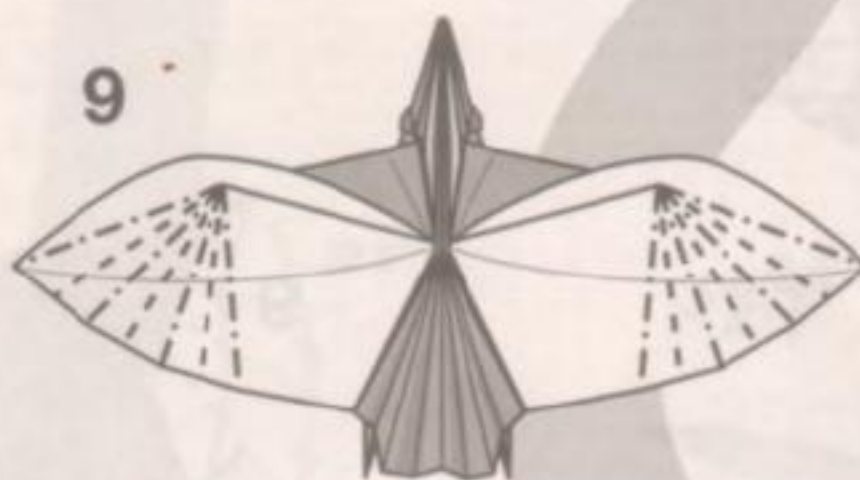


10



反対側も同様に折る

B2-B4



半分の幅で谷折りして扇の様にする

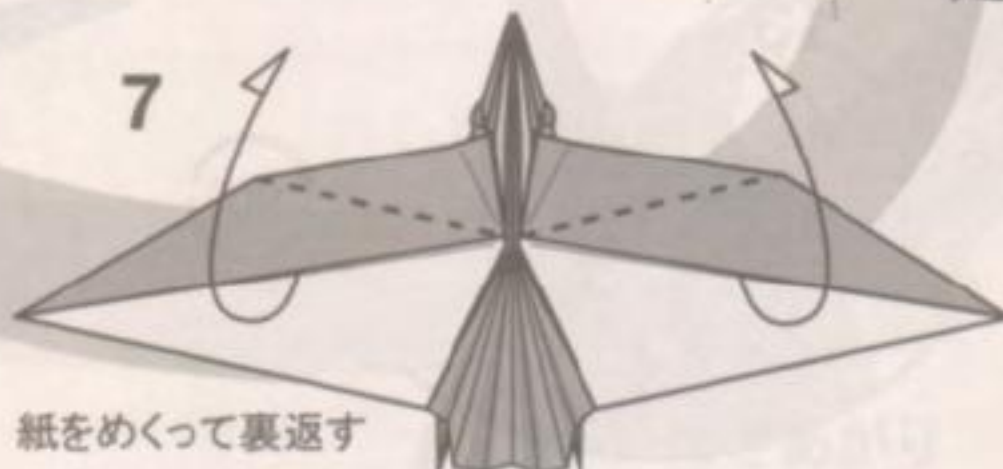
8



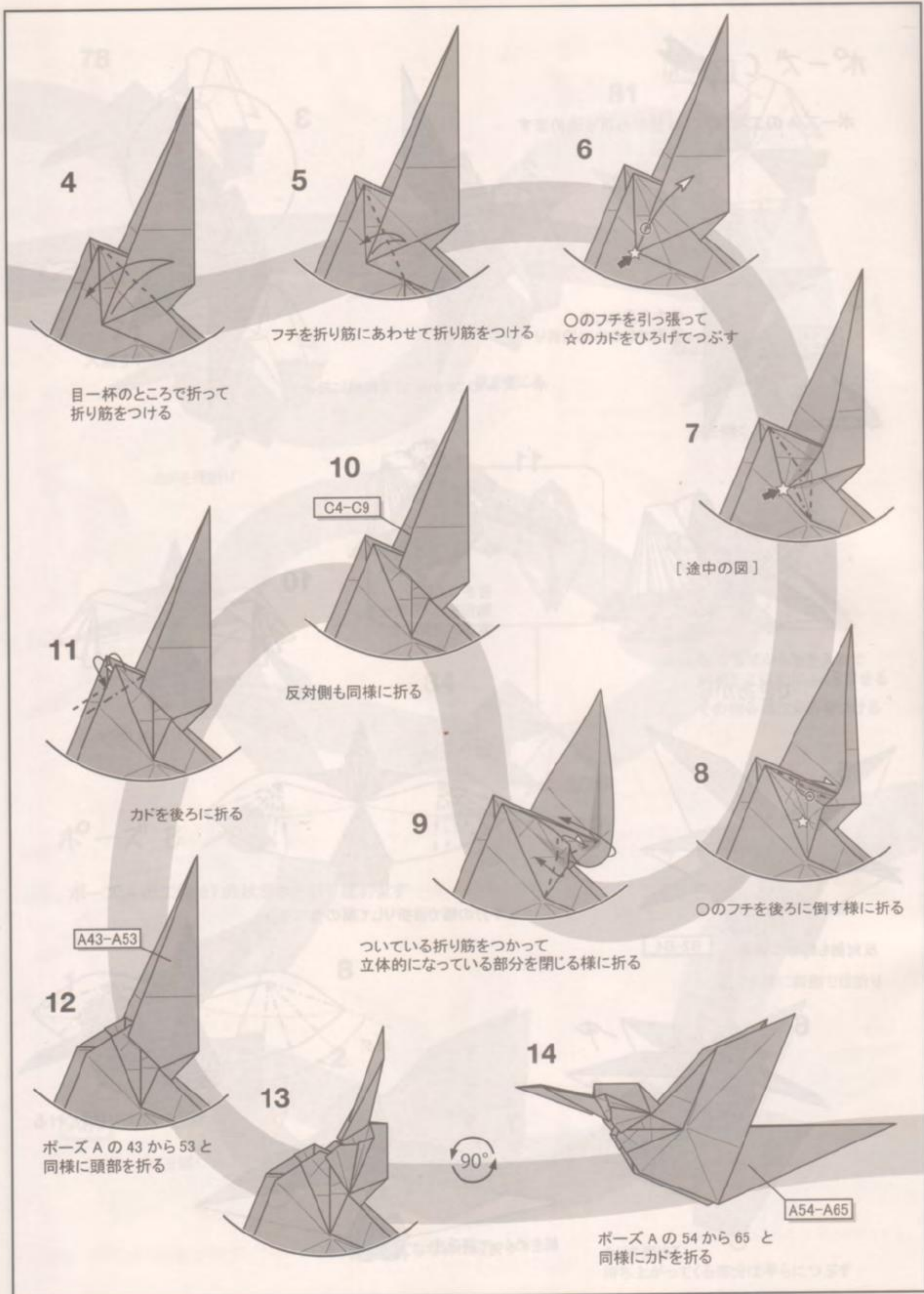
山折りの折り筋をつける



上から見る



紙をめくって裏返す



ポーズD



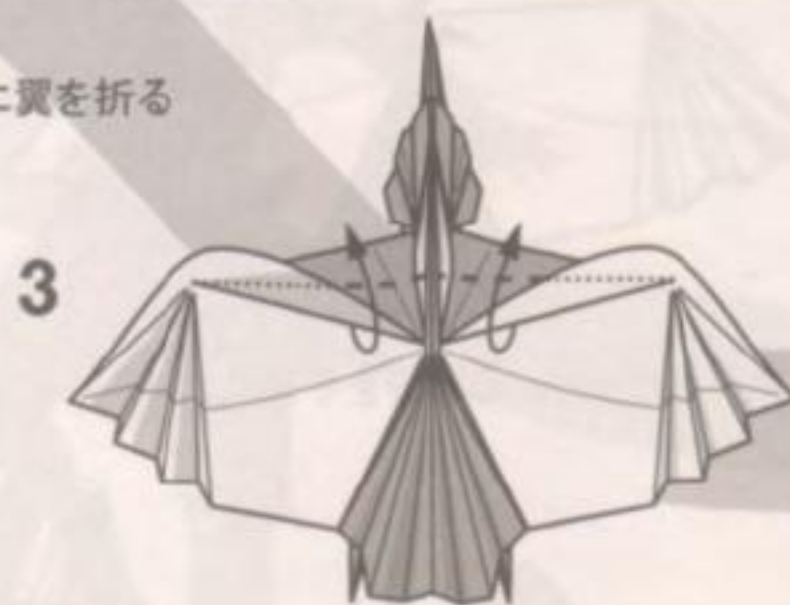
ポーズCの工程15の状態から折り進めます



両側をポーズBの1から3と同様に折る



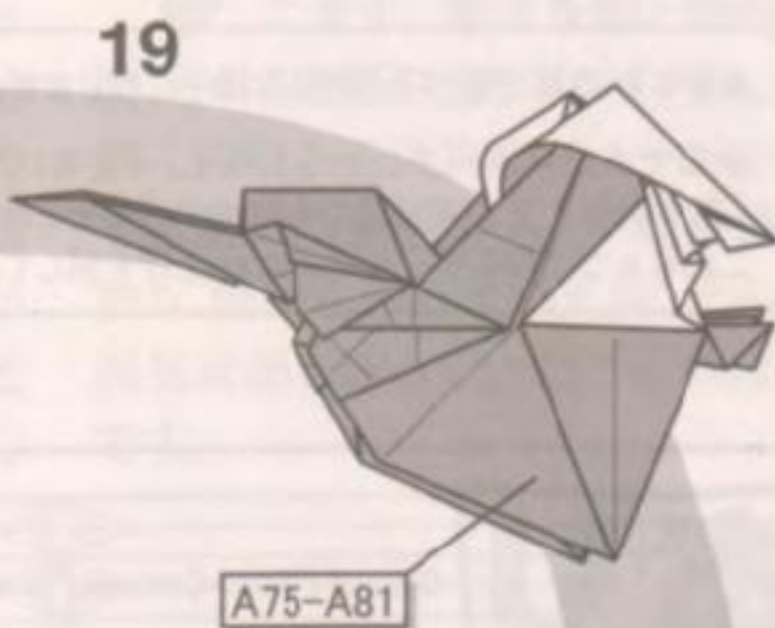
ポーズBの7から9と同様に翼を折る



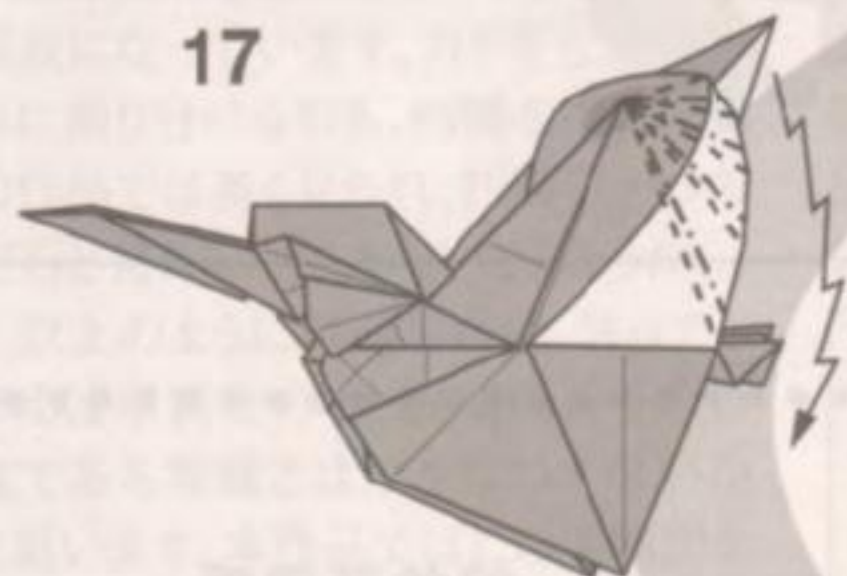
フチをずらす様に折る



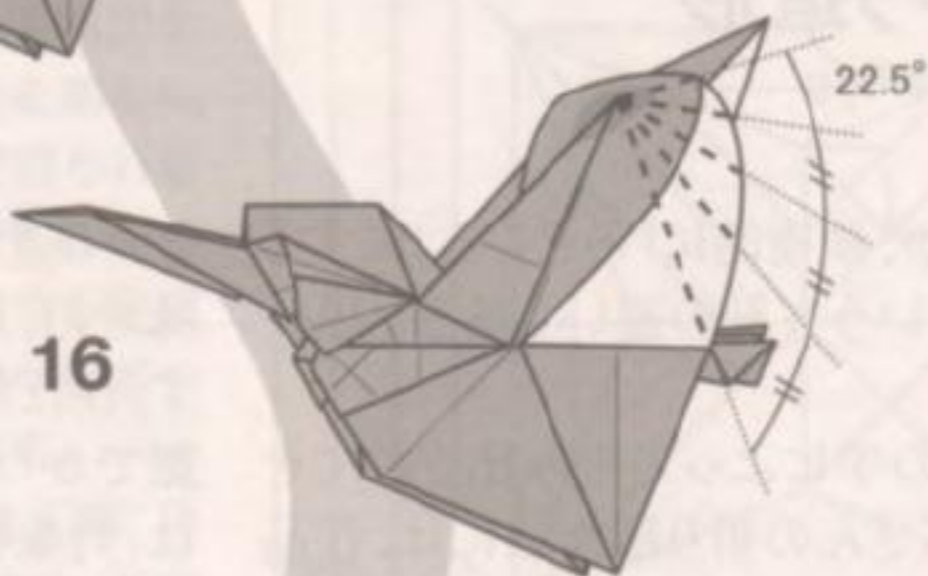
反対側も同様に折る



ポーズAの75から81と同様に折る



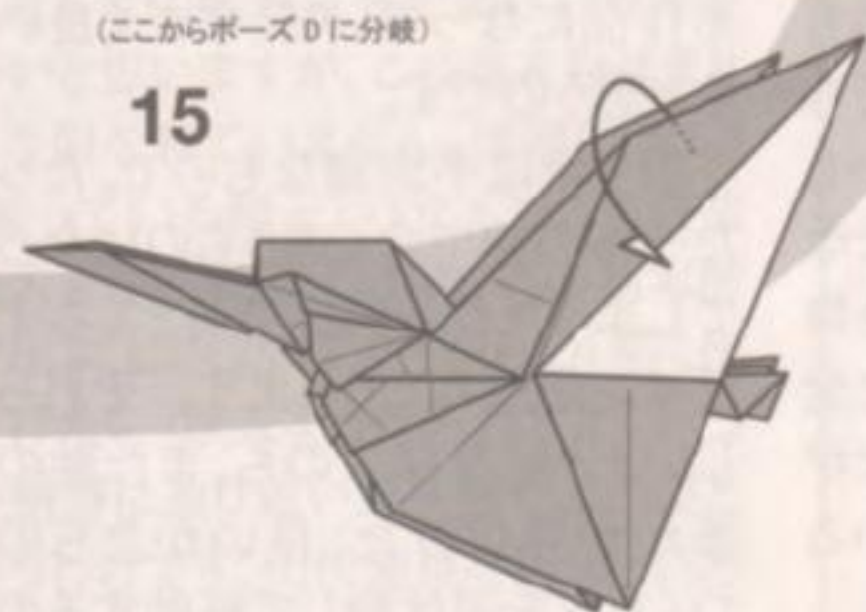
少しずつずらして段折り



谷折りの折り筋をつける

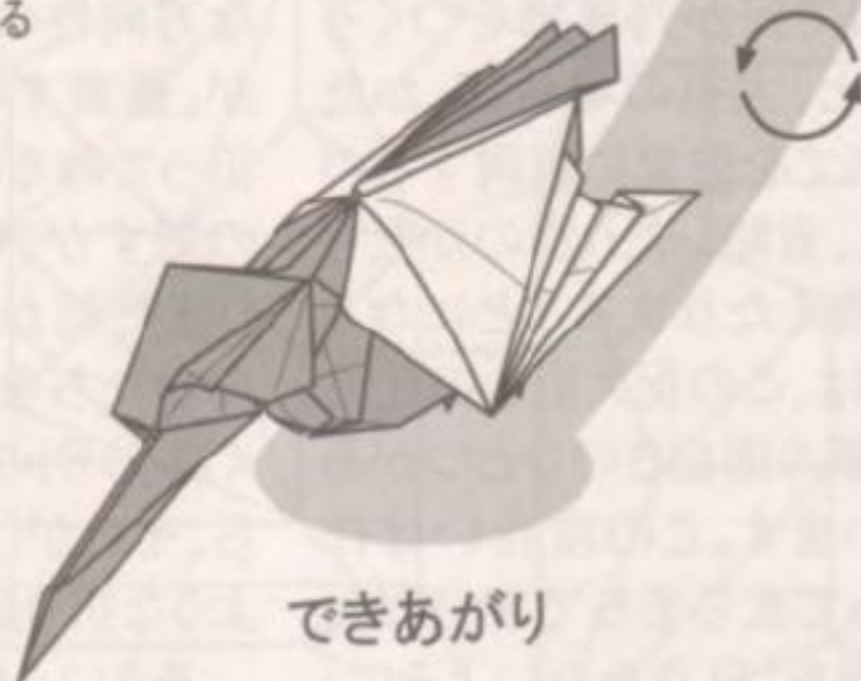


目をつくる
胸部をふくらませる
首の穴を閉じる



(ここからポーズDに分岐)

紙をめくって裏返す





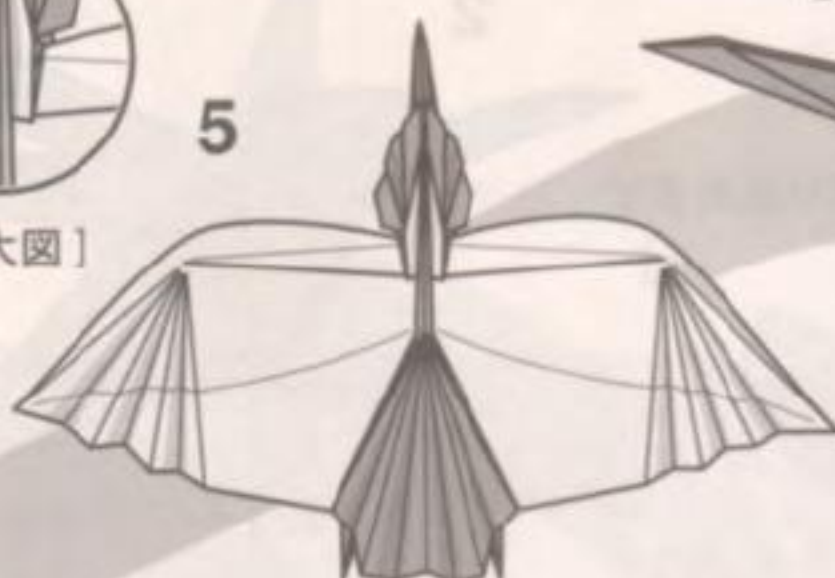
[拡大図]



[拡大図]



重なっている部分を手前に出す



5



6

目をつくる
胸部をふくらませる
首の穴を閉じる

できあがり

A B C D の順で並べると狩りの様子になります。

余談ですが、ポーズDから工程3、4を省いたものが最初に制作した「基本姿勢」で、折り図のものはすべてそこから派生したものです。これら4つに拘らず、いろんな仕上げを試してみてください。



Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙という造形

Origami as Modelling

松井英里香
Matsui Erika

紙におりすじをつけて畳むと、そうしてできた線と面の集まりがたちまち何かに見えてならない時があります。ただの一枚の紙に、目を引く存在感が出てくる瞬間です。

折り紙で何か対象物をつくりうとすると、大抵の場合は、かたちのすべてを忠実に再現するのではなく、省略したり別のかたちに置き換えたりすることになります。私は、この捉え直しの仕方に、折り紙の面白さのひとつがあると思います。この度合いは作品によってまちまちです。また、その箇所を「目立たないように」

するか、積極的に「みどころ」にするか、という方針の違いもあると思います。

人の手によって生み出されてきたたくさんの折り紙作品には、作品によって、作者によって、いろいろな方向性のものがあり、そのどれもが、鑑賞するのも、実際に自分でも折ってみるのも、たいへん楽しいものですが、中でも私が最近気になりまた惹かれているのは、対象物のかたちを(時にはよく考えると全く違う)別のかたちで置き換えながら、そこが「みどころ」となっているような折り紙の造形です。

そういう作品には特別に、折り紙

という造形が活きているという意味での、かけがえのなさを感じます。かたちの置き換え方自体が綺麗でかつ表現が腑に落ちる作品は、対象物をつくりながら、そのことによって独立したデザイン、造形作品になっていて、すごく良いと思うのです。

折り紙は不思議なもので、たった一本の線で全く違うものになってしまったり、逆に、ぐっとくるデザインが現れたりします。「それらしい」表現を探すのも、また他の誰かが見付けた、良いかたちの作り方を追体験して感動するのも、とても楽しいことです。

展開図折りに **挑戦**

Crease Pattern
Challenge!

第 76 回

烏天狗

Karasu Tengu

柏村卓朗

Kashiwamura Takuro

Created : 2011/08

Paper Size : 79×79cm

Height: 45cm

四鶴構造は九つの長いカドを容易に折り出すことが出来る非常に魅力的な構造で、多くの方々が作品に活用してきたと思います。この作品はその四鶴にひだを加えるというシンプルな構成になっています。カドを左右非対称に振り分けるのも、四鶴を用いた虫の作品では多く見られ、四鶴の一つの定石と言えるのではないのでしょうか。

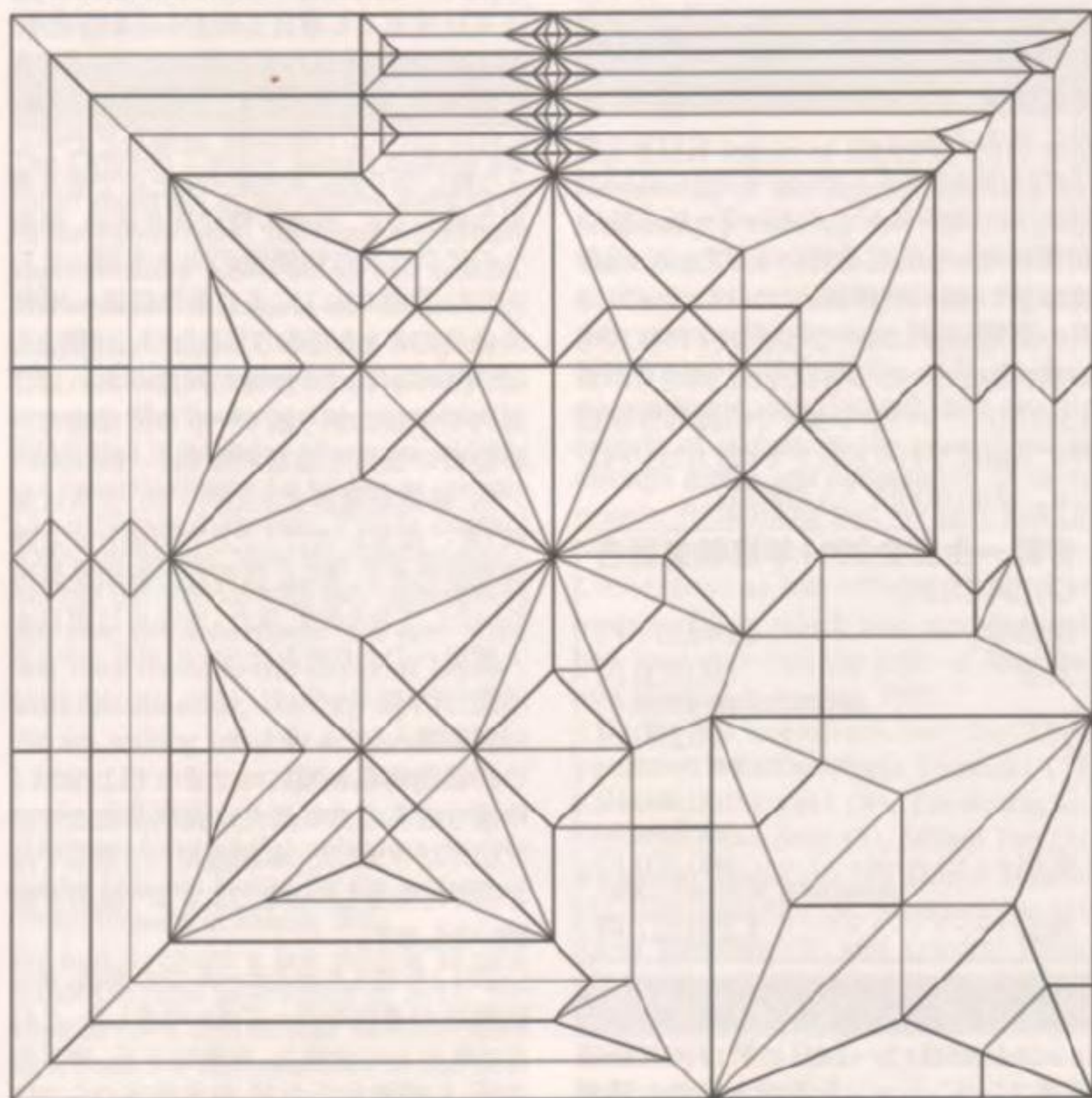
以上のように構造が明快、言ってしまうと単純なので、展開図折りの妙味である複雑さは余り味わえないかと思えます。本作品ではこの展開図を折りたたんだ後の「仕上げ」を楽しんで頂きたいです。長いカドで得られるポージングの自由度(足はそれ程でもありませんが)と用紙に対する完成サイズが大きいおかげで様々なポーズ、造形が出来るかと思えます。

本作品の容姿は一般的な天狗、烏天狗のそれとは少々異なります。天狗と言えば山伏装束を想起される方が多いと思いますが、この烏天狗はまともな服を着ていません。頭襟(ときん)(被っている帽子)のサイズも不自然な大きさです。創作の際、この基本形が出来上がった時点で自らの「早く仕上げたい」欲求を止められずに、一つの納得に辿り着いた状態がこの姿というわけです。山伏装束を折りたい方は改造して下さい。ですが、立派な装束が折れなかったことは頭襟を大きく

する理由にはなりませんね。何故、頭襟が大きいのでしょうか。

創作をしていると作品に情が移っていきます。制作しながら、この作品はどのような背景を背負っているのか、どのような心持でいるのか。作品制作にはそういった自分で作りながらも、作られている対象を憶測するという不思議な性質があると思います。

特に一枚から一体を折ることの多い折紙では強く感じます。粗末な服と動的な四肢、これらを折り出していく内に、血気盛んに暴れる天狗のイメージが湧いてきました。山伏からくすねた頭襟を被り、虚勢を張る若い天狗、そんな雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。



日本折紙学会 (JOAS) 22期事業報告と23期予定

JOAS' Annual Report: Activities in the 22nd Year and Prospects in the 23rd Year

1) 会員・定期購読者

第22期は前期に比べ購読者、会員共にほぼ同水準となっています。専門誌の宿命ですが、日本折紙学会の活動理念には自負を持って取り組んでおり、それを支える理想的な経営規模の実現を目指し新しい試みを含めて模索中です。

22期会員の皆様へは、今期の配付資料として前川淳氏の「変則用紙型紙集」および宮本宙也氏の折り図「死神」を送付させていただいております。23期につきましても日本折紙学会の活動理念にご理解をいただき引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2011年度も多くの皆様のご寄付をいただいております。改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にロマン・ディアス氏(ウルグアイ)、クエンティン・トロリップ氏(カナダ)を第17回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。5月には九州コンベンションでのブライアン・チャン氏(USA)招待、11月には名古屋コンベンションでのジョセフ・ウー氏(カナダ)、2012年3月には関西コンベンションにジェイソン・クー氏(USA)招待に対して助成を行いました。2012年度は第18回折紙探偵団コンベンション、5月の第2回九州コンベンション、11月の第8回名古屋コンベンション、2013年3月の第13回関西コンベンションでの海外作家招待にも助成を行う方針です(地方コンベンションは50,000円/人の助成)。

吉野一生基金2011年度収支報告 (2012年3月3日)

繰越金	1,249,877 円
入金	480,600 円
(振込みによる寄付金102名分)	
	70,150 円
(コンベンション会場等での寄付)	
	100,000 円
(日本折紙学会)	
支出	680,000 円
(海外招待5名、招待に関わる雑費)	
残金	1,220,627 円

3) 折紙探偵団コンベンション

2011年8月13~14日に第17回折紙探偵団コンベンションを東京大学弥生講堂

で開催し、盛会に行うことができました。2011年度は東日本大震災とそれに続く夏の電力事情等の影響で会場決定に苦労いたしました。第18回折紙探偵団コンベンションは2012年8月10~12日開催の予定ですが、会場につきましては現在調整中です。2011年度の地方コンベンションでは第1回九州コンベンション(佐賀大学)、第7回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)、第12回関西コンベンション(神戸女学院大学)を開催することができました。2012年度も5月に第2回九州、11月に第8回名古屋、2013年3月に第13回関西コンベンションを予定しております。世話役となつていただいております友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◇折り紙資料の収集整理を目的とした折紙図書館事業では収集整理した資料の蔵書目録約1,800点をウェブ公開いたしております。収集資料の内容につきましては本誌連載でも適宜ご紹介しております。2011年度は図書利用が徐々にではありますが増えてきております。土曜日の13時からJOASホールで数時間、絶版などで手に入り難い折り図に取り組むことのできる貴重な機会です。書庫の整理等を進め、図書へのアクセスの利便性の向上を図っております。具体的には、これまで図書の閲覧は会員のみとしておりましたが、23期より(2012年4月より)会員の同席があればご友人や学校の折り紙サークル関係者など非会員の閲覧も施設利用料(一般300円/回、機関誌購読者200円/回、会員は無料)をご負担いただくことで可能とする運営を始めます。さらに活発なご利用をお待ちいたしております。また、本年度は東日本大震災へのおりがみはうすのボランティア活動「折り紙キャラバン」から100,000円分の図書購入を行いました。

◇折紙指導員制度につきましては、2011年度も数名の方に新たに資格認定をさせていただきました。本制度につきましてはさらに有用なものとなりますよう検討を継続いたします。

◇2011年度もJOASホールでの例会、折り紙教室の運営を行ってまいりました。これまで東京友の会例会、布施知子氏、神谷哲史氏、川崎敏和氏など、有名作家ならではの

の特徴ある講習会、更に2011年7月、12月には第10回、第11回折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催しました。話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。今後とも折り紙の様々な活動拠点として有効に運営してまいります。

◇2011年度は学術誌『折り紙の科学』を創刊することができました。2012年度の第2号に向けても数編の論文の査読が進行中です。本誌への論文投稿をいただいた研究者の皆様には感謝申し上げます。

◇折り紙の知的財産権検討に関しましては、「折り紙の著作権に関する国際会議」への参加、第10回折り紙の科学・数学・教育研究集会での研究報告(「判例研究」)など研究を進めております。これらの研究は専門の弁護士による調査やレビューを受けるようにしております。「折り紙の知的財産権検討基金」への皆様のご寄付を引き続きお願い申し上げます(本誌131号「折紙三昧」に寄付要項を掲載しております)。2012年8月には、第5回折り紙の著作権に関する国際会議(テーマ:折り紙データベースなど)の日本での開催も予定されており、JOASは積極的に協力していきます。今後も折り紙の知的財産権の研究を着実に推進いたしますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

折り紙の知的財産権検討基金2011 年度収支ご報告(2012年3月3日)

繰越金	18,150 円
入金	177,500 円
(寄付金 3名分)	
	100,000 円
(日本折紙学会)	
支出	285,000 円
(弁護士報酬)	
残金	10,650 円

内訳: ①判例研究「ふきごま事件(通称)」一審判決理由の検討(7月研究集会にて報告)
②著作権他分野予備調査(詰将棋、コンセブチュアルアート、彫刻)(2011年9月)
③判例研究「ふきごま事件(通称)」控訴棄却理由の検討(2012年1月)
註)判例研究は、当該事件の折り紙著作権への影響を検討したものであり、JOASは裁判当事者ではありません。

5) 総会・その他

◇日本折紙学会2011年度の会計報告につきましても、第18回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会

においてご報告いたします。2012年6月30日までに第23期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内をご送付申し上げます。

◇日本折紙学会はその活動理念には自負を持って取り組んでおりますが、学術活動や知的財産権検討など、今後ますます様々な関係者やメディアの理解を得て進めてゆく必要があります。そこで、東京大学名誉教授 三浦公亮氏を会長にお迎えし、各界との交渉力の向上を目指します。このため新たに会長職を設定するよう規約改訂を実施し、2011年8月の総会にてご承認いただいております。

◇23期の評議員体制は、川崎敏和(4)、川畑文昭(7)、川村みゆき(8)、小松英夫(2)、館知宏(2)、津田良夫(7)、西川誠司(5)、羽鳥公士郎(3)、北條高史(4)、前川淳(3)、三谷純(5)の11名で運営を進めてまいります。立石浩一氏は任期満了につき退任となります。評議員代表は引き続き西川誠司が務める予定です。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます(カッコ内は勤続年数:最長任期9年)。

1) Membership and Subscribers

In the 22nd year, we had almost the same number of subscribers and members as in the 21st year. As other journals of this type go through, we do not see much increase. However, we JOAS are proud of our activities, and we promise that we would keep the high standard that we do have, which will have us ways of optimal management of the Society.

To the 22nd year members, we enclosed a booklet with "Templates for Irregular-Size Origami Sheets" by Maekawa Jun and diagrams of Miyamoto Chuya's Grim Reaper. We expect all members and subscribers will renew for the 23rd year as well.

2) The Yoshino Issei Fund

We thank you for your continuing support of the Yoshino Fund for the year 2011. In August, 2011, we have invited Roman Diaz (Uruguay) and Quentin Trollip (Canada) to the 17th Origami Tanteidan Convention with the Fund. We have also invited Brian Chan (USA) to the Origami Tanteidan Kyushu Convention in May, 2011, Joseph Wu (Canada) to the Origami Tanteidan Nagoya Convention in November, 2011, and Jason Ku (USA) to the Origami Tanteidan Kansai Convention in February, 2012. In the fiscal year 2012, we plan to aid travel fees of foreign invited guests of the 18th Origami Tanteidan Convention in August, the 2nd Origami Tanteidan Kyushu Convention in May, the 8th Origami Tanteidan Nagoya

Convention in November, and the 13th Origami Tanteidan Kansai Convention in March, 2013 (100,000 yen for Tokyo, and 50,000 yen for the regional conventions).

As of March 3rd, 2012, the Fund has 1,270,627 yen (contributions from members 550,750 yen, budgetary aid from JOAS 100,000 yen, and expenses 630,000 yen (mainly invitation of the five origami creators)).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 17th Origami Tanteidan Convention at Tokyo University on August 13-14, 2011. We had so many participants and the Convention was a success, but we had to have a convention at another place due to the aftereffects of the Earthquake in March, 2011. The 18th Origami Tanteidan Convention will be held on August 10-12, but we are still working on the convention site. As for the regional conventions, we had the 1st Kyushu Convention (Saga University), the 7th Nagoya Convention (Nagoya University of Arts), and the 12th Kansai Convention (Kobe College). In the fiscal year 2012, we also are planning to have the 2nd Kyushu Convention in May, the 8th Nagoya Convention in November, and the 13th Kansai Convention in March, 2013. We thank you for cooperations of folders of the world, and JOAS thank staff members of these conventions.

4) Other Prospects

The Origami Library started making the list of materials in the archive there open on the web in April, 2007, and we do have approximately 1,800 books and articles. The contents of archives are occasionally introduced in the Tanteidan Magazine. The number of users are gradually increasing. The books can be viewed in the JOAS Hall in Saturday afternoon, and this is a valuable chance for folders to see rare and precious diagrams. Please contact JOAS for its use. Note that non-members can use the archive with fees (subscribers 200 yen, non-subscribers 300 yen) given that they come to the Origami Library with our member, starting April 2012. We are waiting for your active use of the Library. In this year, the Library bought books 100,000 yen worth in total from "Origami Caravan," a volunteer project run by Origami House for the victims of the Earthquake in March, 2011.

We had licenced a few people as new JOAS Origami Instructors in 2011. We hope to have this license become more beneficial for the awardees in the near future.

The studio space we have gained in 2005, JOAS Hall, are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Fuse Tomoko, Kamiya Satoshi, Kawasaki Toshikazu, and so on. We also had held the 10th and 11th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in July and December, 2011. We are grateful to the participants of the meetings for various kinds of stimulus to us. The Hall will welcome any origami-related activities.

We finally published our first academic magazine Origami Sciences. The 2nd issue will be published in 2012 and articles are being reviewed. We thank contributors for their serious interest in the magazine.

JOAS participated in the Origami Copyright International Conference, and reported an analysis of a judicial precedent to the 10th Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education. Of course, we are regularly consulting professional lawyers to make searches for the analysis. We are still calling for the Fund for the Intellectual Rights and Copyrights on Origami, the regulations of which are described in the Origami Tanteidan Magazine no. 131. In August, 2012, the 5th International Copyright Conference is planned to be held in Japan, to which JOAS will continue to be an active member. We thank you for your understanding and cooperation.

5) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2011 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 18th Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2012.

JOAS have to deepen the understanding on academic, intellectual, and artistic aspects of origami to the general public through media and cooperation of many people. To facilitate this, we have had Dr. Miura Koryo (Professor Emeritus, Tokyo University) as our official Chair. The position Chair, which was newly placed, had been approved the topic of the General Meeting in August, 2011.

The Board members for the 23rd year will be: Kawahata Fumiaki (7), Kawamura Miyuki (8), Tsuda Yoshio (7), Nishikawa Seiji (5), Mitani Jun (5), Kawasaki Toshikazu (4), Hojyo Takashi (4), Hatori Koshiro (3), Maekawa Jun (3), Tachi Tomohiro (2), and Komatsu Hideo (2) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). The chair of the Board will be Nishikawa Seiji.

Rabbit Ear つまみおり

Information

◀シアターのような会場で(アトランタ)



国際交流基金・北米-ペルー 派遣レポート 山口 真

2012年1月29日から2月8日までの期間に、国際交流基金からの要請を受け、山口真、松浦英子、勝田恭平の3人で、アメリカの都市マイアミ、アトランタと、ペルーの首都リマの施設を訪問し、ワークショップとデモンストレーションを行った。

ワークショップでは、はじめに「折り紙キャラバン」の写真をスライドショーで流し、被災地の様子とその活動内容、趣旨を説明するという形で行った。また、折り紙の歴史や科学等の分野のスライドも用意していたが、情報の新鮮さとわかりやすさからか、折り紙キャラバンの反応がいちばん良かったため、参加者の希望を踏まえつつ各会場で折り紙キャラバンの活動の紹介からはじめることになった。

基本的に対象は初心者や子供になるため、簡単に作れるが楽しい作品、又は、その地元に根差したような作品を、

参加者の年齢層等を見てから選び、講習した。

全ての場所で講習した作品は「マコトコマ」で、子供は勿論、最後に作品が回った瞬間には大人からご年配の方まで笑顔が溢れていた。また、バレンタインデーの時期だったため、ハートの講習もほぼ全ての会場で行ったが、こちらは何が完成するのかを隠した状態で進め、最後にひっくり返すとハートになるというサプライズがあり、更にチョコやキャンディー等の入れ物になると説明すると、大いに会場が沸き、「すぐに使いたいわ!」と殆どの参加者が興奮したし、会場を沸かせた。

マイアミとアトランタの会場は、日本語のクラスを受けている生徒のいる学校である場合が多く、通訳が入る前に、日本語での説明や冗談を理解してリアクションをする参加者も多く見られ、リラックスした教室となっていた。折り紙については、個人差はあるものの完全に初めての経験という人は少なかった。

ペルーではスペイン系の人種が多く、ラテンアメリカ特有の大らかで明るい印象であった。ある会場では「皆さん折れましたか」と聞くと全員が作品をかざす仕草が印象的であった。

日本ペルー文化会館では毎回100名をこす参加者が押し掛け、体育館のような広い会場を埋め尽

▲長い行列をつくらせて作品を見ていく参加者

くしていた。余りにも参加者が多く、我々だけでは手が回らなかった。そこで我々がペルーに行くことを事前に知っていたというOrigami Peruのメンバーが会場に来てくれてアシスタントになってくれ、助けてくれた。その会場では作品展示の前で長い列を作り、写真を撮りながらもお互い邪魔をすることなく流れて見ていく姿を見て沢山の作品を持っていった甲斐があった。他にも、参加希望者が予想以上に多くなった会場があったり、教室参加者ではなかった会場スタッフが気がつくや紙を手に取り、熱心に講習を受けていたり、折り紙に対する興味は強いように感じられた。

全体的にタイトなスケジュールで、一日にいくつもの会場を回り、講習を連続して行うこともあったが、どの会場でも参加者の笑顔が絶えず、その笑顔が、最後までやりきる力を与えてくれたように思えた。



▲NOVA大学(駅の前ではない)で



▲Origami Peruのメンバーが助けてくれた

第18回折紙探偵団コンベンション コンテスト作品募集のお知らせ

JOAS創作折紙コンテストは、今回で6回目となります。今回の特別テーマは「ピュアランド」です。また、例年通り、干支部門があります。おりがみはうす賞のテーマは、前回に引き続き「東京スカイツリー」です。

- JOAS賞特別テーマ部門：ピュアランド
- JOAS賞干支部門：巳
- おりがみはうす賞テーマ：東京スカイツリー

「ピュアランド」とは、イギリスのジョン・スミス氏が提唱した折紙で、山折りと谷折り以外の折りを禁止するというものです。今回のコンテストでは、以下のルールとします。

- 一作品につき正方形の紙一枚のみ使用可
- 使用可能な折りは、山折りと谷折りのみ
- 切り込みや切り取りは禁止

- のり付けは禁止
- 上記以外で、折りを伴わない操作は使用可
- ぐらい折りは、ないことが望ましいが、あってもよい
- 工程数は制限しない

禁止される折りの例としては、中割り折り、かぶせ折り、引き寄せ折り、沈め折り、ひらいてつぶす、途中までしか折らない山折りや谷折り、曲線折り、などがあります。要するに、単純な山折りあるいは谷折り以外の折りはすべて禁止します。

一方、折りを伴わない操作、例えば、折ったところを戻す、ひっくり返す、差し込む、立体化する、などはすべて使用できます。もしも許可されるかどうか判断が分かれる操作があった場合、JOAS評議員が最終的な決定権を持つものとします。

なお、「ピュアランド折紙」は「ミニマル折紙」とは異なります。今回のコンテストでは、工程数は制限しません。山折りと谷折り（および、戻す、差し込む、広げる、など）だけで折られていれば、シンプルか複雑かは問いません。

以下、各賞共通のルールです。
※ひとりで3賞それぞれへ1点ずつ応募できます。
※応募は未発表の創作作品に限ります。コンベンション前に公開しないよう気をつけてください。

※JOAS賞はJOAS評議員およびコンベンション参加者の投票で決定します。
※はうす賞はおりがみはうすが審査し決定します。はうす賞の東京スカイツリーについては大きさ、枚数に制限はありません。ハサミだけは不可となります。但し、郵送、宅配便などで送れるもの、または持参できるもの。
※著作権のあるキャラクターものの応募については、権利者からの許可をとったものの以外は審査の対象外となります。
※上記以外の詳細は募集受付開始時（5月末予定）にお伝えします。

The 18th Origami Tanteidan Convention: Call for the Models for the Thematic Model Competition

It is the time to make a call for models for the coming 18th Origami Tanteidan Convention, which will be held from 10 through 12 August. We hope it if many of you present high-quality models, for you should have enough time for preparing them.

First of all, we call for models and diagrams for the Convention Book, which the world's folders are waiting for. The deadline is the mid of June, so start working on diagrams as early as possible.

As for the regulations on application, please have a look at our style sheet in the JOAS web site (<http://origami.gr.jp/>).

Second, as for the 6th JOAS Origami Model Contest, the theme for the thematic competition has been decided on "Pureland". The Zodiac Theme of this year is "Snake". We also have the Origamihouse award. Its theme is the same as the previous year: "Tokyo Sky Tree". Pureland is the notion proposed by

British folder John Smith, in which any folds other than mountain and valley folds are prohibited. For the full rules regarding the Pureland competition, see our web-site at <http://origami.gr.jp/>.

Applicants can submit up to one model to each of the three competitions. The models to be sent must be unpublished original creations by the folder, so please do not publish diagrams, crease patterns or models before the

Convention. The models can be multi-sheet for the Zodiac theme and Origamihouse award. Cuts are not allowed.

The JOAS Awards are selected based on the votes of JOAS Board members and the participants of the Convention. The Origamihouse award is selected by Origamihouse. We start accepting models for the Contest in late May, so please wait and see.

<http://origami.gr.jp/>

第12回折紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

第12回折紙の科学・数学・教育研究集会を下記要項で行います。折紙の科学・数学・教育に関する研究者の、最新研究の発表が行われます。どなたでも聴講ができますので、興味のある方はぜひご参加ください。また、発表者を公募します。日程などの詳細は、決定次第、お知らせします。

日時：6月の週末の一日（詳細は決定次第、WEBなどでお知らせします）

会場：JOASホール（東京都文京区白山1-33-8）

参加資格：なし

◇発表者応募要項

以下の内容を、5月末までに、メールで送付してください。

氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要（200文字まで）、発表予定時間（30分以下としますが、交渉に応じます）

連絡先：webman@origami.gr.jp

（担当 前川）

広告のコーナー

I ♥ ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 / 50作品収録

好評発売中

ポリロッド：川村みゆき、サンタのオーナメント：小松英夫、非常口：森末 圭、ウサギ：萩原 元、ねこ：川畑文昭、フクロウ：勝田恭平、ハト：ロマン・ディアス、シャコ：アンドレイ・エルマコフ、ウサギ：ジェイソン・クー、ブロングホーン：クエンティン・トリップ等、国内外の50作品を収録

書籍名／著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫」 販売終了	—		—
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判 / 全180頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回～第9回及び第12回～第15回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

商品名	送料	内 容
折紙探偵団Tシャツ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手
ORIGAMI Tシャツ 2,300円(税込)		左胸に[折紙・折鶴]、背面には [ORIGAMI]などの文字が入った Tシャツ。黒のみで布は厚手
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律 1～2セット 440円	35×35cm / 10枚入 / 70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図
「折紙探偵団」専用ファイル 750円(税込)	1冊250円 2冊350円 3冊470円	変形B5判 / 箔押し(緑)ロゴ入り 雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊) と、会員特別配布物が収納可能!

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

折り紙キャラバン Tシャツ



2,000円(税込)

送料:2着まで500円

折り紙キャラバンのロゴ
が入ったTシャツ。色は黒
で布は厚手です。S、M、
L、XL各サイズあり。
※1着につき500円が東
日本大震災に支援のため
寄付されます。

書籍の送料

書籍1冊の送料は420円

書籍2冊の送料は530円

上記以外の場合はお問い合わせください 書籍と紙製品は別発送となります

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2012年5月25日



四季の千代紙

友禅千代紙

季節の彩り和のこ

しきのすよがみ

冬 秋 夏 春

¥200
(税抜き)

 **株式会社ト-ヨ-**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所

日本折紙学会発行 定価 635円(本体605円)